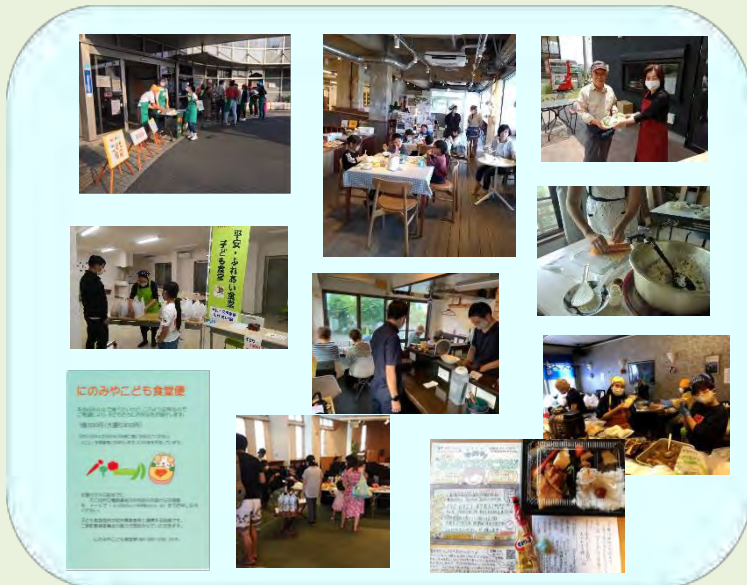
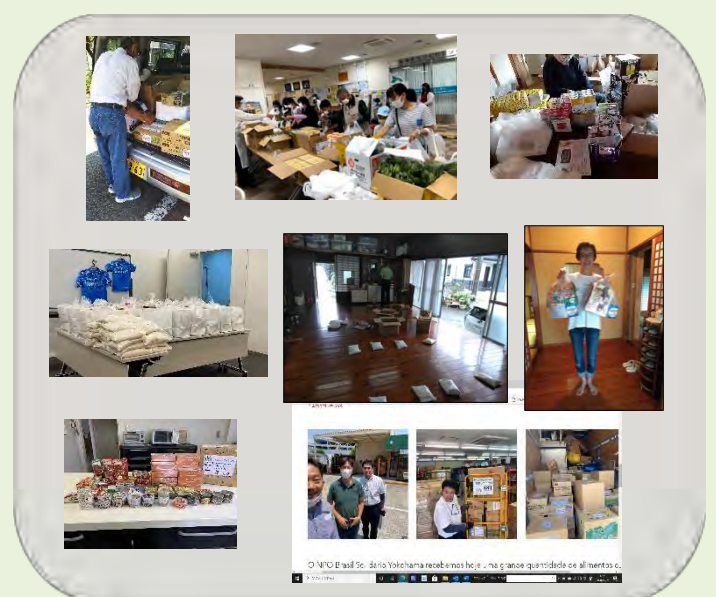


新型コロナ対応 緊急応援助成

第1次・第2次の助成団体紹介



子ども食堂、地域食堂



フードバンク、フードパントリー



学習支援、子育て支援、居場所



セミナー・相談事業、障がい者支援

目次

公益財団法人 かながわ生き生き市民基金とは……………	4
新型コロナ対応緊急応援助成について……………	5
新型コロナ対応緊急応援助成（講評）……………	6~7

【新型コロナ対応緊急応援助成 助成団体】

<子ども食堂、地域食堂>

駒岡丘の上こども食堂……………	8
平安・ふれあい食堂……………	9
合同会社 蔵まえ……………	10
NPO 法人 宮ノマエストロ……………	11
特定非営利活動法人 湘南食育ラボ……………	12
あさみぞみんなのコミュニティ……………	13
ドリームセンターこどもカフェ……………	14
相武台団地ひよこ子供食堂……………	15
にのみやこども食堂便……………	16
NPO 法人 ワーカーズ・コレクティブ協会……………	17
新型コロナウィルス関連支援プロジェクトよこすか実行委員会……………	18
地域のお茶の間研究所 さろんどて……………	19
医療生協かながわ 瞳班……………	20
幸町こども食堂おいしいねの会……………	21
キッズカフェ杉田……………	22
NPO 法人 子育ての輪 Lei……………	23
みんなでごはん……………	24

<フードバンク、フードパントリー>

特定非営利活動法人 サテラ……………	25
たすけあい……………	26
特定非営利活動法人 ワンエイド……………	27
フードコミュニティ……………	28
フードバンク浜っ子南……………	29
NPO 法人ブラジル solidário 横浜……………	30

<学習支援、子育て支援、居場所など>

育ち合い広場 てとてとて	31
子ども学習支援グループ 須賀の寺子屋.....	32
特定非営利活動法人 湘南まぜこぜ計画	33
Art Lab Ova	34
特定非営利活動法人 青空保育ぺんぺんぐさ	35
こども広場 ウェルカム	36
TIE トマトマの会	37
コミュニティカフェ 6 丁目クラブ.....	38
NPO 法人 ワーコレたんぽぽひろば	39
特定非営利活動法人 アスリード	40
ラフェリーチェ	41
ホームスクーリングで輝くみらいタウンプロジェクト	42
CoCoLo の会	43
NPO 法人 子どもと共に歩むフリースペースたんぽぽ.....	44

<セミナー・相談事業、障がい者支援など>

一般社団法人 みんなのレモネードの会	45
特定非営利活動法人 ひだまりの森	46
親と子のふれあい自遊塾	47
特定非営利活動法人 湘南 DV サポートセンター	48
特定非営利活動法人 ファミリア	49
NPO 法人 しえんのまなび舎.....	50
認定 NPO 法人 アール・ド・ヴィーヴル	51
一般社団法人 湘南学校教育研究所.....	52
特定非営利活動法人 DV対策センター	53
ユニバーサル絵本ライブラリーUniLeaf.....	54
NPO 法人 ドリームエナジープロジェクト	55
リンパ浮腫ネットワークジャパン	56
聖マリアンナ医科大学病院乳がん体験者の会マリアリボン	57

新型コロナ対応緊急応援助成プログラム実施にともなう緊急寄付活動について58

寄付文化の拡がりに皆様のご協力を ～市民基金を支える寄付方法～59

公益財団法人 かながわ生き生き市民基金とは・・・

◆ 成り立ち

食料・環境・福祉の分野での問題解決を、市民参加型ですすめてきた生活クラブ生活協同組合（1971 年創立）は、90 年代初頭から、市民が時間・知恵・労力・いくばくかのお金を出し合って当事者となる参加型福祉運動を実践してきました。その担い手は主にワーカーズ・コレクティブという働き方を行う女性たちでした。

1990 年代当時、これら女性たちの意志ある社会貢献事業に資金を貸す金融機関は無いため、自前の財源による市民バンク（「女性・市民コミュニティバンク」の前身）をつくり、1998 年から市民事業への融資を始めました。

生活クラブ生協は 2003 年に組合員に呼びかけて、福祉たすけあいにかかわる市民の福祉活動・非営利の市民事業の基盤造成・活動支援を行うための組織「生活クラブ福祉たすけあい基金」を設立しました。そして「生活クラブ福祉たすけあい基金」の 10 年間の助成活動の実践を経て、2013 年にはこの事業を地域社会の中に押し出し、「公益財団法人かながわ生き生き市民基金」を設立しました。

◆ ミッション

＜投資して利潤を稼ぐことが経済＞という考えが現代社会に蔓延しています。つまるところ、人々の社会生活は「経済成長」に付き従うべきだという主張につながります。しかし一方で、豊かな生活をつくるのが経済の目的で、お金はそのための手段であるという考え方があります。人と人との関係の中に「温かいお金」を循環させようという主張です。

私たちの社会は、格差・貧困が野放図にすすみ、個人の権利や尊厳が、労働・教育・環境・平等など生活の中心分野で損なわれつつあります。女性や若者、こどもや障がいを持つ人が生きにくい社会になっています。

かながわ生き生き市民基金は、ひとりでは支えきれない地域社会の課題の解決を、お互い様から始め、更に相互扶助に留めず、人・団体・活動を、お金や情報の循環でつなぎ、市民が持つ知恵・労力・時間・いくばくかのお金などの社会資源を拠出し合い、市民が共に力を合わせ、自立した「地域市民社会」をめざします。

◆ 基金の事業・活動

かながわ生き生き市民基金の中心事業は、市民による寄付造成とこれを財源とした助成を通じた市民活動・事業への支援です。現在 3 つの助成プログラムを行っています。

福祉たすけあい基金（2015 年度から通常型助成とスタート助成を実施）は、1 万人を超える意思ある生活クラブ組合員の月 100 円寄付を基本財源とした助成プログラムです。事業指定助成プログラム「エラベル」は、登録した団体が寄付募集活動を行い、財団はこれを支援します。オーダーメイドプログラム（2015 年助成の「子どもいきいき助成」）は寄付拠出者が助成プログラムを指定します。

助成事業を中心に、研修セミナー事業、相談・助言事業、広報発行事業を行っています。



新型コロナ対応緊急応援助成について

新型コロナウイルス感染が拡大し、子どもや高齢者への影響が広がっています。社会的に弱い立場の人々にしわ寄せがいき、生活基盤を失う人が増え、生活困窮者が増えています。このような情勢のなかで、私たち、かながわ生き生き市民基金は、緊急助成プログラムを設置し、子どもや社会的弱者への支援活動を行っている市民活動団体への緊急応援助成を実施します。



対象となる団体、事業

<対象となる団体>

神奈川県内に事務所を置く非営利団体（法人格の有無は問いません）。

<対象となる事業・活動>

新型コロナウイルスによって大きく影響を受ける、子どもや高齢者、社会的弱者を支援する活動。

- ① 地域のフードバンクによる生活困窮者への食料支援事業・活動
- ② 子ども食堂・地域食堂等による食支援事業・活動
- ③ 子どもの居場所を運営する団体が行う子ども支援事業・活動
- ④ 無料学習支援団体によるチャレンジ事業（オンライン学習など）
- ⑤ 子どもを持つ母親等を対象とした相談事業
- ⑥ その他、本プログラムの趣旨に合った事業・活動



助成額

<第1次>

- ① 助成総額 予算 200 万円、実績 2,300,430 円
- ② 助成上限額 10 万円（1 団体）
- ③ 事業対象期間 2020 年 4 月から 5 月に実施する事業・活動

<第2次>

- ① 助成総額 予算 300 万円、実績 4,025,000 円
- ② 助成上限額 10 万円（1 団体）
- ③ 事業対象期間 2020 年 6 月から 8 月に実施する事業・活動



助成の原資について

本助成金は、（公財）かながわ生き生き市民基金「福祉たすけあい基金積立金」および「趣旨に賛同くださる団体・個人からの寄付」により実施します。



選考委員（敬称略）

委員長	手塚 明美	一般社団ソーシャルコーディネート神奈川 理事長
	田中 夏子	イタリア協同組合研究者/ 農業者
	川岸 卓哉	弁護士/（特非）原発ゼロ市民共同かわさき発電所理事長
	友澤 ゆみこ	（特非）ピッピ・親子サポートネット 理事長
	小田 鈴子	元逗子市副市長/元逗子市議
	高村 文子	横浜YMCA 国際・地域事業担当チーフディレクター
	鈴木 薫	かわさき生活クラブ生協理事
	君島 周子	かながわ生き生き市民基金理事・生活クラブ神奈川副理事長



新型コロナ対応緊急応援助成（第1次）選考 講評

暗いトンネルの向こうに明るい出口を求めて、共に励まし合い歩むために

2020年6月1日

公益財団法人 かながわ生き生き市民基金 理事長 吉村 恭二

新型コロナウイルスの感染は文字通り「あっという間に」社会全体に広がっていき、来る日も来る日も「コロナ」のニュースが拡散して社会全体がある閉塞感に覆われている感があります

感染を防ぐため「人と人」との密接な関係を出来るだけ断ち、いわゆる「ソーシャルディスタンス」を保つように努力し、更には可能な限り自宅で過ごすことが望ましいとの通達が出されてしまう状況が続いています。日本社会は4月が新しい年度の始まりであり、とりわけ学齢期の子どもたちは新しい学年度で気持ちを新しくして生活を開始する大切な人生の区切りであるはずでした。しかしながら現実の社会は人と人との関係を出来るだけ距離をあげ、マスクで顔を覆い、自宅に閉じこもることを要請されるといったいわゆる社会的関係を断つことを求められる生活が求められるものです。感染防止のためとはいえ大変困難な生活を求められる重苦しい毎日です。極論をすれば既存の社会全体の構造が問い直しを迫られている「コロナ」感染の一連の対応による影響であるといっても過言ではないでしょう。



私たち「市民基金」もこのような社会的変化の流れの中で、とりわけ基金助成対象である社会的弱者への支援活動が続けている仲間を緊急応援すべきではないかとの思いから、「新型コロナ対応緊急応援助成」実施することになりました。助成金申請の募集には当初の予想を大きく上回る29団体からの応募がありました。いずれの団体も子供の貧困に寄り添い、居場所を求める高齢者の生活課題にともに取り組むなど、集団での対応ができないため訪問中心の活動やフードバンクとの連携による食材配達サービスを実施するなどきめ細かい活動の申請が目立ちました。

社会全体を覆う言い知れぬ空虚な空気と閉塞感の中で多くの人が生活の中で、明るさを見出しともに助け合う社会を作り出していくために、地道な努力を重ねている仲間を支援すること、それに応えて支援を受ける立場の人々が生活の中に明るさや暖かさを感じてくださることこそ私たち市民基金に関係する者一同の願いです。

この緊急応援助成はこれで終了するわけではなく第二次の実施も考えています。その為にも今までにまして多くの市民の方からの基金への支援も不可欠です。是非今まで以上のご支援を引き続きお願いする次第です。またこのために支援してくださる賛同者を一人でも多く募っていく必要があります。お知り合いの方には是非お声掛けください。暗いトンネルの向こうに明るい出口を求めて共に励ましあう歩みを共にする私たちであることを喜びとする仲間であることを感謝いたします。

新型コロナ対応緊急応援助成（第2次）選考 講評

市民が支える市民活動の自主性と創造性

2020年7月1日

公益財団法人 かながわ生き生き市民基金理事

選考委員長 手塚 明美

かながわ生き生き市民基金では、「新型コロナ対応緊急応援助成」第2次助成団体44団体を決定しました。第1次助成団体（29団体）を大きく上回る結果となりました。各団体とも現在の状況を真正面から捉え、新しい活動の方法を模索する姿を申請書に記載いただき、市民活動の自主性と創造性を感じました。第1次においては、創造力を駆使した企画が多数寄せられておりましたが、第2次ともなりますと、少しコロナ感染状況が判明してきたこともあり、実効性の高い企画が多く寄せられました。また、第1次募集の際には見ることでできなかった、新しい課題を捉えた活動もあり、近年の大きな災害の後に見えてきていた被害の広がりも感じられました。



選考は、第1次と同様に選考委員会を速やかに実施し、44団体の皆様に、予算額300万円を超える総額約400万円の助成を決定することができました。これは、本助成に賛同していただいた市民の皆さんによる寄付が予想を上回った結果によるもので、ここでも多くの市民から市民活動へのエールを頂きました。「応援すること」は「応援されること」につながり、一方通行ではない未来の社会構造を支える一歩を大きく踏み出す姿が見えてきました。

世界の状況は収束に向かっていとは言えません。勿論、国内の状況も同様です。そもそも市民活動は、市民が市民を支える仕組みです。多くの皆様と共に今後も歩み続けてまいります。この度のご応募、ご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

駒岡丘の上こども食堂(横浜市) 代表 七田 直樹

助成金額 (第1次) 60,000円

団体紹介

設立年月

2016年4月より活動開始

団体の目的・活動内容

こどもの貧困対策の一助となればとの思いから開始、月2回(第1、3木曜日)開店。
こども食堂としての食事の提供、フードバンクその他との提携による食材等の配布(ミニフードパントリー)

活動歴

2016年4月より、前回2020年9月3日まで
107回開店

団体情報

住所: 〒230-0071

横浜市鶴見区駒岡4-28-5

横浜市駒岡地区センター内

TEL: 045-571-0035

E-mail: shichida_n@komaoka-cc.com

URL: <http://komaoka-cc.com>

★助成した事業・活動

子ども食堂

★内容

5月7日(木)、21日(木)実施の第99回、100回目の【駒岡 丘の上こども食堂】開店時にお弁当、その他食材等を、配布。

★助成対象

食材費(お弁当、おやつ)

非接触遠赤外線電子温度計

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

今回のコロナ禍で、2016年4月より横浜市駒岡地区センターの施設を利用して、開催していた【駒岡丘の上こども食堂】が3月3日横浜市の決定により、地区センターの臨時休館となり、活動休止となったが、こども食堂を必要としている方の為に活動継続を模索し、その代替えとして、施設外にてのお弁当その他、食材配布に変更、保健所の指導により、こども食堂ボランティアが作ったお弁当の持ち帰りは出来ないとの事で、外部から調達を行うとコストが嵩み、活動の継続が予算面で難しくなる可能性が出てきたが、今回の助成金を頂いた事により、活動継続が可能となった。コロナ禍での活動継続により、参加者多数より、感謝のお言葉やお手紙をいただき、ボランティア一同、勇気を貰えました。

大変ありがとうございました。



平安・ふれあい食堂（横浜市）

代表 河西 英彦

助成金額（第1次） 20,000円 （第2次） 80,000円

団体紹介

設立年月

2019年5月設立

団体の目的・活動内容

子どもの貧困問題の中、単発的に開催していた、子ども食堂、家族全員で団欒を経験して頂こうと「平安・ふれあい食堂」として全ての世代の参加を受け入れることにしました。

正に大家族の食事、にぎやかで楽しい食卓でした。コロナ前は、子どもの居場所・学習教室・育児相談・子育て相談等健全育成と高齢者サロンが活動です。

活動歴

子供の居場所・小学生学習支援・子育て相談会・地区懇談会（小中学生）、高齢者サロン・高齢者の居場所・ボッチャ教室

団体情報

住所：〒230-0031

横浜市鶴見区平安町2-2-5

TEL: 090-3246-4558

FAX: 045-521-5931

URL: h-kasai@me.point.ne.jp

★助成した事業・活動

ふれあい食堂、子どもの居場所

★内容

コロナ感染防止のため、持ち帰り方式に変更して活動を継続

★助成対象

ボランティアスタッフ交通費、容器代

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

自粛、自粛の中スタッフは使命感で会場に来てくださいました。心ばかりの危険手当の交通費も補助金がなければ払うことが出来ませんでした。好意に感謝しています

にぎやかに、一家だんらんの食事をと願っていましたが、新型コロナウイルス蔓延のため、やむなく持ち帰り方式としました。必要とする人がいる限り頑張ろうとスタッフの意見が一致しました。容器代も苦慮していましたが、大切な補助金で賄うことが出来たことも、後押しになりました。おかげさまで多くの笑顔に会うことが出来ます。感謝！感謝！



合同会社 蔵まえ (藤沢市) 代表 佐野 晴美

助成金額 (第1次)21,000円 (第2次)25,000円

団体紹介

設立年月

2006年6月創業

団体の目的・活動内容

アートを身近に誰もが楽しめるスペースに
* ギャラリー (企画貸し 個人展 団体展 公募展)
* イベント企画 (素材市、音楽鑑賞 映画鑑賞
アートワークショップ など) * 絵画教室 * 出張講座
* 蔵まえカフェ * みんなでごはん

活動歴

2018年から飲食業の認可でカフェ、みんなでごはんを営業

団体情報

住所: 〒251-0053

藤沢市藤沢630-1

TEL: 0466-25-9909

URL: <http://www.FacebookCom/kuramaegallery>

★助成した事業・活動

子ども食堂

★内容

困窮家庭のこどもや引きこもりや高齢者などへの食支援、食材提供

★助成対象

食材費、光熱費、スタッフ交通費など

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

日頃から困窮家庭や引きこもりの方々は交流の場も少なく孤立しがちだと思います。今回助成金をいただいてコロナ禍であっても人と人とのつながりは会って食事をしたり、会話したりする機会は大変大事なことで改めて認識しました。わずかな時間でも違う世代やめったに会うことのない人との交流をこうした助成金をもとに継続していくことができ、大変感謝しています。

コロナ禍で引きこもりの方は一層部屋から出られなかったり、学校の休校や平常通りではない状況の中で子供たちもストレスが溜まっています。感染防止をさらに強化しながら「みんなでごはん」を利用してもらい、交流し気分を明るく保っていただけるよう努めていきたいと思っています。



団体紹介

設立年月

2018年4月

団体の目的・活動内容

すべての世代が緩やかに繋がり、困ったときには
支えあえ、お互いを大切にしながら地元への愛着を
深めることを目的とします。

活動歴

横浜市介護予防補助事業、子育て支援、フードパ
ントリー、子ども食堂、各種イベント他

団体情報

住所: 〒245-0013

横浜市泉区中田東4-59-41

TEL: 045-884-0246

Mail: miyanomaesutoro@yahoo.co.jp

URL: <https://miyanomaesutoro.amebaownd.com/>

★助成した事業・活動

子ども食堂

★内容

子ども食堂・地域食堂等による食支援事業・
活動

★助成対象

食材費、ボランティア活動経費、感染対策費

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

コロナによる貧困、高齢者の引きこもりなど課題
が多いがパントリーやお弁当配布など気持ちは
あってもボランティア団体のため資金的に難かつ
たが、助成金のおかげで地域の方の助けになり、
担い手も喜びを感じられています。

今後はフードパントリーで賞味期限接近などの
フードロス削減にも取り組みたいと思います。平時
の繋がりが非常時の支えあいになると考えるので、
これをきっかけに高齢者世帯との繋がりを厚くして
いきたいと思います。



特定非営利活動法人 湘南食育ラボ(藤沢市) 代表 小田 拓也

助成金額 (第1次)100,000円 (第2次)100,000円

団体紹介

設立年月

2013 年 1月

団体の目的・活動内容

成長期である子ども及びその保護者等に対して、食に関する教育の推進事業を行い、安全・安心な食生活により人間力を養い、子どもの健全育成に寄与することを目的とし、子どもの居場所を運営する団体と協力

活動歴

平成25 年 1 月 NPO 法人湘南食育ラボ設立
平成25 年 7 月 学校法人湘南学園と『食に関する教育事業』等に関する「協定書」締結
平成25 年 9 月 学校法人湘南学園のカフェテリア運営を受託(現在に至る)
平成30 年 8 月 大磯中学校給食支援事業
令和2年 3月 かながわSDGsパートナー登録(第3期登録)

団体情報

住所: 〒251-8505

藤沢市鵜沼松が岡3-4-27

TEL: 0466(90)5474

URL: <http://www.shonan-slab.com/>

★助成した事業・活動

放課後での給食支援

★内容

肢体不自由児へのお弁当の提供

★助成対象

食材費、消耗品費、運搬費

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

この度、助成を受ける事ができましたことにより、新型コロナウイルス緊急事態宣言解除後も、我々のコロナ対策支援を、継続しご提供することとができました。

特定非営利活動法人ラウレアとともに子どもたちも親御さんも、そして私たち自身も、皆様の未来が今以上に輝ける場所を目指して、お弁当をお届けすることができました。心より感謝申し上げます。

今までも子どもたち向けのお弁当作りを行って参りましたが、通常の弁当では食べられない子どもたち多いということを痛感いたしました。そしてラウレアに通う児童だけでなく障がいがあって通常の食事を取れない児童は外食やその他の食事でも苦労していると感じました。

今後は栄養士とも協力し食べやすくおいしいメニューを開発し、その食事をラウレアの児童に食べて頂き、より多くの人に食を楽しんで戴けるような取り組みをしていくことによって、地域社会やもっと広い範囲の人の役に立つ組織になっていきたいと思っております。この事業で、他NPOと協働することで自分たちだけでは気づけなかったことに気づけたり、より多くの人々の生活を豊かに出来るのではないかと感じました。成果は、子どもたちから頂けた「笑顔」と「ありがとう」でした



あさみぞみんなのコミュニティ(相模原市) 代表 永野 寿郎

助成金額 (第1次)30,000円 (第2次)100,000円

団体紹介

設立年月

2017年8月

団体の目的・活動内容

- ・福祉的課題を抱える子どもたちへの食事提供及び宿題等に関する学習支援を実施
- ・食を通じてのコミュニティにより、社会との共生を学ぶための居場所づくり
- ・こどもからお年寄り、障害のある方問わず、異世代が交流する地域コミュニティを確立する

活動歴

【開催頻度】

月2回第2と第4日曜日の午前11時から14時

【開催場所】

下原公会堂

団体情報

住所: 相模原市南区

TEL: 090-49131-3517(中臺)

Mail: asamizo.community.180701@gmail.com

URL: <http://www.sagamiportal.com/hp/>

★助成した事業・活動

コミュニティ食堂、居場所活動

★内容

お弁当の無料配布

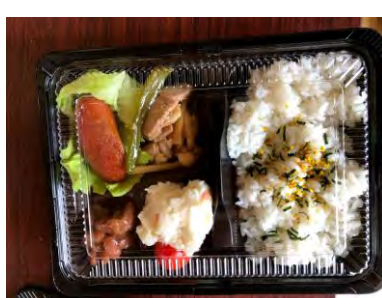
★助成対象

感染対策費、食材費、スタッフ活動費

助成を受けて...の思い・メッセージ

新型コロナの影響で外出自粛が発出される中で、少しでも地域のコミュニケーションが図れないかと模索する中で、行政からの支援もあり利用が禁止されている公民館を利用し、お弁当の調理配布に踏み切りました。感染防止には最大限の配慮を行う中で開催。来てくださる方の数は、昨年度の食堂開催時の時よりも多く、6月7月は70名ほどに達しました。

来場される皆様からの「ありがとう」「久しぶりに皆さんと会えてうれしかった」という声を頂き、開催してよかったと痛感しました。



ドリームセンターこどもカフェ(藤沢市) 代表 藤村 良彦

助成金額 (第1次) 100,000円 (第2次) 100,000円

団体紹介

設立年月

2005年4月

団体の目的・活動内容

2005年藤沢市において子供たちの交流の場ができたことにより、親睦と子供たちの健康的な成長を目的として活動を始めました。

活動歴

2017年1月より毎月1回子供たちの夕食を無料で提供する「こどもカフェ」を開始。2019年よりフードバンクかながわ様より提供いただき、「こどもカフェ」の充実に加え、生活困窮者への食糧の提供を始めました。

団体情報

住所: 〒251-0052

藤沢市藤沢545-48-101

オリーブチャペル内

TEL: 090-1052-1730

Mail: f-olive@d3.dion.ne.jp

★助成した事業・活動

教会内での子供たちの勉強の場、子どもカフェ

★内容

子供カフェ、子ども食堂

★助成対象

物品購入費、感染対策費、食材費

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

コロナ禍で、すべてが手探りの中、子どもたちが安心して居ることができる環境を整えようと考えた時、多くの経済的必要性を感じていました。物が品薄になり、高騰し、あきらめなければいけないときも出てくる中、助成を受けることができたことは大きな励みとなりました。家や学校において、人との関わりが少なくなる中、イベントなどに来る子どもたちが笑顔になってくれたことを通して、私たちは笑顔の場所を提供できたことをうれしく思います。まだまだ対応を緩めることができず、長期化する状況の中で、安心して居ることのできる場を提供できるよう、頑張っていきます。



相武台団地ひよこ子供食堂(相模原市) 代表 澤谷 いつ子

助成金額 (第1次)70,000円

団体紹介

設立年月

2017年9月

団体の目的・活動内容

地域の子供達の食育、見えない貧困や、生活苦を抱える家庭への食からサポートを目的
設立時より、月1回の子供食堂開催

活動歴

月1回の子供食堂開催その他、年2回の大規模相武台団地活性化イベント参加
断捨離マーケット開催収益事業の展開

団体情報

住所: 〒252-0323

相模原市南区相武台団地2-3-5

TEL: 046-404-0540

Mail: hibaricafe@hotmail.com

URL: <http://hibaricafe.jimdo.com>

★助成した事業・活動

子ども食堂

★内容

コロナ禍における学童、障害者一時支援、指導員さんへのランチ提供

★助成対象

食材費など

助成をうけて...の思い・メッセージ

第1次助成は思いがけない助成で4月にコロナ禍で政府の自粛要請の為に学校も行けない子供達が相武台ひよこ食堂では学童保育や障害者一時預かりに押し寄せ、連日子供達が30人以上押し寄せ指導員さん、ボランティアさん達が悲鳴をあげてる状態で、ひばりカフェではせめて昼の食事をお母さんの代わりに届けようと、4月1日より1か月間毎日子供達のランチを提供させてもらいました。

その手伝いとして子供食堂の皆さんが連日の手伝いに入って貰い、無事子供達、指導員さんからはコロナ感染者も出ず、協賛として公社のユソーレを食事場所として貸して頂きました。助成金が出るのは後日知りましたので、後日申請をさせて頂き、初めて助成金なるものが有るということを知りました。自腹をきってのランチ提供の予定でしたがコロナ禍における緊急支援を頂き大変助かりました。

何より連日の学校に行けない子供達の多さに万が一クラスターが出たら大変だと思い皆で力合わせての1か月でした。多くの皆さんのお蔭でこの様な活動も出来ました事感謝いたします。有難うございます。



にのみやこども食堂便(二宮町) 代表 片木 康子

助成金額 (第1次)100,000円 (第2次)100,000円

団体紹介

設立年月
2020年4月

団体の目的・活動内容

二宮町の子供たちの食の環境をコミュニティで支える。
食支援事業。

活動歴

新型コロナにより学校給食が休止の時期に、弁当を配食。(5月20日～6月26日)

団体情報

住所: 〒259-0123
二宮町二宮133
TEL: 090-3297-2292
Mail: ein03stein1649@ozzio.jp

★助成した事業・活動

子ども食堂、お弁当の配布活動

★内容

にのみやこども食堂便

★助成対象

食材費、宅配作業謝金

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

これまでこども食堂を運営していた町内の団体もコロナ禍の為、活動休止状態となり、学校給食も休止。この中、模索している時に、同じように考えている弁当業者との出会いがきっかけとなり、事業が動き出しました。助成金の情報もあり、給食費程度の価格に抑え、しかも栄養のバランスも良く美味しいものという要望に沿ったお弁当が可能になりました。あとは配達のシステムと人。学校を通してのチラシの配布、メールでの申し込み受付、弁当の数の把握、業者へ発注、地図上に印、地区別に配達者の確保。朝、弁当を受け取り、配達コース別に仕分け、配達者に渡す。26日間、土日を除く毎日この作業が続きました。配達には10名以上の方が快く協力して頂き、子供たちの喜ぶ様子を報告されるなど、癒されるひと時でした。配達が終わる頃には、子供たちからのお礼のメモがいくつか届き弁当業者さんと共に喜びを分かち合いました。

長期の学校給食休止により、子どもの食の環境がどうだったのか。今回、こども食堂便を利用した子供たちは一部であり、本当に支援を必要とされる子供たちの食環境について不安を感じています。このことは次のセーフティーネットに繋げる原動力になっています。

にのみやこども食堂便

本当はみんなで食べたいけど、このような時なのでご希望により、子どもたちにお弁当をお届けします。

1食200円(大盛り300円)

5月20日から土日以外のお昼ご飯にお役立てください。
メニューを希望者にお送りします。1日50食を予定しています。



お届けの3日前までに
①ご住所②電話番号③お名前④お届け日⑤個数
をメールで(ein03stein1649@ozzio.jp)までお申し込みください。

子ども食堂団体が町内事業者等と連携する取組です。
二宮町教育委員会の協力で周知させていただきます。

にのみやこども食堂便 090-3297-2292 (片木)



みんなのとまり木

食品ロスをなくし、人と人をつなぐ架け
橋となるフードパントリーをはじめました。
興味のある方はぜひお越しください。

リユースの店 fufu リニューアルオープン!

14時～16時(日曜定休)
場所: 中野二宮町二宮133
mail: ein03stein1649@ozzio.jp
TEL: 090-3297-2292(片木)
主催: 『にのみやこども食堂便』



フードパントリーとは
「フードバンク」もきめ、皆様からの寄付品を「必要の方々に届くための食糧」です。
コロナへの対応をしながら日曜を除く午後2時～4時まで、以下の場所で開催しております。
私たちは二宮町で人と人をつなぐ、あつて良かったと思えるような場所になればと
考えております。
居場所としてフラットに様々なことを共有できるスペースを用意しています。
また、お手伝い頂くボランティアも募集しています。

ご注意事項

お持ちになった食品は数量制限です

1・食品については持ち込みましたらこちらに連絡下さい。企業へ譲渡のクレーンではできません。
2・消費期限が過ぎているものもありますので、ご確認をお願いします。
3・お持ち頂く場合、配達の準備をお願いいたします。メッセージボードを掲載します。
4・同じフロアにあるリサイクル品を扱うリユースの店「fufu」の品物は有料です。

NPO法人ワーカーズ・コレクティブ協会(横浜市) 代表 上田 祐子

助成金額 (第1次)60,000円 (第2次)100,000円

団体紹介

設立年月
2004年5月

団体の目的・活動内容

- ・利益優先の市場経済社会の中で、私たちは非営利市民事業と言う、新しい分野を拓き、おおぜいの市民の参加による新しい公共の実現をめざします。
- ・誰もが共に地域で働き・暮らす社会をめざしています。

活動歴

- (1)行政からの委託事業
- ・横浜市就労準備支援事業 横浜市委託事業
- ・座間市就労準備支援事業 (生活クラブ生協と共同企業体として)
- ・小田原保健福祉事務所就労準備支援事業(同上)
- (2)自主事業
- ・誰でも共に働くコミュニティキッチンぽらん(2009年～2015年)

団体情報

住所: 〒231-0006
横浜市中区南仲通4-39 石橋ビル3階
TEL: 045-212-1421 FAX: 045-663-3137
E-mail: npo@wco-kyoukai.org
URL: <https://www.wco-kyoukai.org>
<https://www.poran.info/>
<https://www.facebook.com/poran2018/>

★助成した事業・活動

地域の居場所、反町カフェぽらん

★内容

配食サービス、コミュニティ食堂

★助成対象

食材費(弁当)、感染対策費、ボランティア謝金

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

助成金を受けたことで、テイクアウトのチラシを思い切って作成して地域に撒けました。

何度も撒いたことで認知度も信用度もあがった気がします。今頃になって8月に撒いたチラシを見て高齢のご夫婦の方から配達の注文が来たりしています。また、コミュニティ食堂やその他のイベントでもアクリル板や非接触式の体温計があることで、安心して利用してもらっています。

学生応援弁当をすることで、学生さんとのつながりもできました。



新型コロナウイルス関連支援プロジェクトよこすか実行委員会（横須賀市）

代表 和田 信一

助成金額（第1次）100,000円（第2次）100,000円

団体紹介

設立年月

2020年4月

団体の目的・活動内容

横須賀市立市民活動サポートセンターの登録団体で活動している「よこすか子育て応援ネットワーク」および「よこすか三浦子ども食堂・地域食堂ネットワーク」の加入団体が、コロナ禍の状況を受け、新型コロナウイルス感染者や子育て世帯へ何か支援ができないかと、有志に声をかけて結成した。

ネットワークの強みを生かし、子育て世帯の困りごとをすくい上げ課題解決に向けて活動する。

活動歴

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い困難を抱える家庭への支援。

団体情報

住所：〒238-0041

横須賀市本町3-27

横須賀市立市民活動サポートセンター

TEL：046-828-3130

Mail：numasaki_manami@yokohamaymca.org

（沼崎）

ozawa_michiaki@yokohamaymca.org

（小澤）

★助成した事業・活動

子ども食堂、地域食堂のネットワーク

★内容

子どもを持つ感染者世帯及び感染疑い世帯の買い物代行支援、給食費免除対象者へのお弁当無料配布

★助成対象

ボランティア交通費、食材費（弁当）

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

先ずこの度は助成金承認をいただき誠にありがとうございました。横須賀市内の給食費免除対象者は約4,000世帯あります。本来は行政と連携し全世帯へ周知・支援をと考えておりましたが、対象となる世帯の個人情報守秘義務、配送者の確保など様々な問題点から、今回はモデルケースとして飲食店の近隣となる地域より実施いたしました。

お子さん向けのお弁当ということで栄養バランスや献立がマンネリにならない様に横須賀市内の飲食店にも協力を得ることができ、毎日の配送も実行委員会員に行っていただく事ができました。配送先のご家庭（お子さん）から直接感謝の言葉をいただくなど、本プロジェクトに携わることができ改めて嬉しく思います。

8月をもって「お弁当プロジェクト」は終了になりますが、収束が見えない中、コロナ禍による影響を受けている子育て世代に向けた買い物代行支援事業は引き続き行っていきます。



地域のお茶の間研究所 さろんどて(茅ヶ崎市) 代表 大森 小幸

助成金額 (第1次)92,600円

団体紹介

設立年月

2012年8月

団体の目的・活動内容

目的

身近な所でつながりを作り、支え合い、助け合える地域を目指して活動しています。

活動内容

多世代の居場所、子ども食堂、フードパントリー、傾聴講座、カフェ

活動歴

2012年夏～ まちづくりユニット茅ヶ崎で「さいとうさんち」運営委員会を立ち上げ、「さいとうさんち」を始める。

2013年4月～「プレママとあかちゃんの日」を始める。

2015年～ 「傾聴講座」を始める。

2015年11月～「ほんそん子ども食堂「いただきます」」を始める。

2017年～ 「思春期カフェ」を始める。

2019年10月～「フードパントリー」を始める。

団体情報

住所: 〒253-0042

茅ヶ崎市本村4-16-26

TEL: 080-6529-2707(大森)

Mail: saitosanchi822@yahoo.co.jp

URL: <http://www.sarondote.com/wp/>

<https://www.facebook.com/Sarondote/>

★助成した事業・活動

多世代が交流する居場所

★内容

子ども食堂、フードパントリー

★助成対象

食材費、交通費、通信費など

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために、やむを得ず子ども食堂を3月からお休みしましたが、学校も休校になり、外出も自粛の中で、子どもさんや保護者のことがずっと気になっていました。会場ができませんが、お弁当を買ってお渡しすることはできると使えないので調理してみんなで食べることは思い、近隣のお弁当業者にあたりました。子ども食堂価格でお渡ししたかったので、この緊急応援助成金をいただけることでそれが実現できました。子ども食堂お弁当で再開のお知らせをしたところ、多くの方から反応がありました。実際にお顔を見てお話ができたことはお互いの安心につながりました。この鬱屈とした時期に再開の後押しをしていただけたことは本当にありがたかったです。また4月～5月に新型コロナの影響でお仕事が減ったり、無くなったりの理由で生活が困窮しフードパントリーの登録世帯が増えました。フードバンクかながわ様や他団体からいただいている食品だけでは不足し、今回の助成金でお米や食品を購入し、必要な方々にお渡しすることが出来ました。本当にありがとうございました。



医療生協かながわ 瞳班(藤沢市) 代表 長谷川 ひとみ

助成金額 (第2次)40,000円

団体紹介

設立年月

2018年11月

団体の目的・活動内容

地域の個人、団体と繋がり、地域に居場所をつくり、協同組合の助け合い支え合いを広げる。

活動歴

2019年7月より月1回の地域食堂「六会ご縁食堂」を開催。

団体情報

非公開

★助成した事業・活動

地域食堂「六会 ご縁食堂」の開催

★内容

食堂、食材配布・配達

★助成対象

会場費、スタッフ交通費など

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

コロナ禍にあって、どのように継続していくか、手探りでした。コロナ禍だからこそ、必要な方と繋がって安全に利用してもらう方法を模索しました。狭い会場でソーシャルディスタンスを確保するため、「どなたでもどうぞ」のスタイルから、「家族ごとの予約」にせざるを得ませんでした。そのため参加人数は予定より少なくなりましたが、藤沢市のCSWの方からの紹介を中心に繋がりを作っています。

当日の食事とフードバンクからの食材提供、配達を行いました。特に、コロナ感染対策として衛生材料を十分に購入する事が出来、活用させていただきました。今後も食事の場と食材提供を継続していきます。取組みを支えていただきありがとうございました。



幸町こども食堂おいしいねの会(茅ヶ崎市) 代表 岸 達男

助成金額 (第2次)90,000円

団体紹介

設立年月

2019年6月

団体の目的・活動内容

こどもが地域の中で見守られ、安心してご飯を食べることができる場所です。子育てと仕事、子育てと介護など時間に追われ忙しい保護者の方たちを応援し支えたいと思っています。

活動歴

月1回のこども食堂の開催

団体情報

開催場所 茅ヶ崎市幸町24-6 LAST50セント

TEL: 070-6516-8042(代表 岸達男)

Mail: saiwaikodomo2@gmail.com

URL: Facebook 幸町こども食堂おいしいね

★助成した事業・活動

子ども食堂

★内容

テイクアウト弁当と食材配布活動

★助成対象

食材費、感染対策費など

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

去年の6月からこども食堂を月1回開催。順調にこどもの居場所として定着してきたところ今年3月からコロナ禍で食堂は休止。仕事を辞めざるを得なかったり収入が減ったり、学校が休みになり保護者の財政的・精神的負担が増え、ストレスがたまる親御さんたちに、私たちは何かできないかと相談。緊急支援としてフードバンクや市民からの寄付などで食材の緊急配布を行う。コロナが長引く中、食堂を希望しつつ、やむなくテイクアウト弁当を作り配布。助成金をいただき、多くの食数、さらに客数の減った地域の店から食材を買うなど二重に支援ができて、私たちも有意義な活動ができ今後も勇気と元気ができます。



団体紹介

設立年月

2017年4月

団体の目的・活動内容

- 子どもの孤食防止と居場所作り
- 一緒に食事を共にして会話やゲーム、お遊びをすることで信頼関係を築き、学校で悩みを抱える人間関係について下支えをしていく。
- 親子関係での悩みも共有し、親にとっても良い情報交換の場所としていく。

活動歴

毎月1回(第四土曜日)に開催 他にも、1月は餅つき大会 サンマ焼、スイカ割、植物体験
室内ではおもちゃ遊び、屋上ではシャボン玉 他にも流しそうめんなども

団体情報

住所: 〒235-0026
横浜市磯子区中原4-24-1
TEL: 045-772-1716
Mail: psalms027@gmail.com
URL: <https://sugita-christ-church.jimdo.com/kidscafe/>

★助成した事業・活動

子ども食堂

★内容

子ども食堂、フードパントリー、学習支援

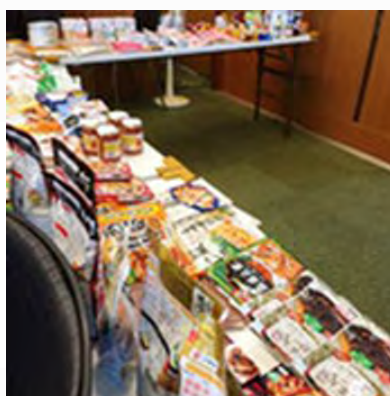
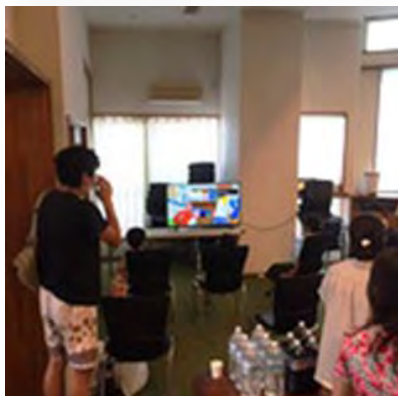
★助成対象

食材費、調理器具などの購入

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

この度は助成をいただきまして、感謝申し上げます。コロナ対策としてソーシャルディスタンスを考えながらの開催を模索しておりました。以前から液晶モニターを使った「こどもの居場所」作りを考えていたこともあり、申請をさせていただき購入することができました。

他にも大型炊飯器やカレーの保温機を購入することで効率化が増し、以前よりゆとりをもって子ども達と会話を楽しむ時間が増えました。そしてコロナ禍でも楽しい時間を子どもたちとモニターを通して共有することができました。



団体紹介

設立年月

2017年3月

団体の目的・活動内容

私たち子育ての輪Leiは、コミュニティの輪を広げ、地域の居場所作りや多世代交流をすることで、社会とのつながりを築き、子育てに対する喜びに気づき、共有し合える場を築き、地域で子育てをする社会を築き上げることを目指し活動している団体です。

活動歴

コミュニティ食堂「おにぎり」（秦野・中井町） 3年

コミュニティ作りマーケット 4年

地域みまもりたい（秦野市協働事業） 1年

団体情報

住所：〒259-0141

足柄上郡中井町遠藤68-1

TEL：080-2047-6633

（留守電にメッセージをお願いします。）

Mail：kosodatenowa_lei@yahoo.co.jp

URL：

<https://kosodatenowa.wixsite.com/kosodatenowa-lei>

★助成した事業・活動

子育て支援、フードパントリー

★内容

弁当を宅配、フードパントリーとして各家庭に物資を届ける活動

★助成対象

拠点家賃、スタッフ交通費、感染対策費

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

コロナ禍自粛を要請され、少しずつ積み重ねてきたスタッフ・来園者との絆が突然寸断されてしまいました。テレビの報道などで買い物に行くことも自粛を要請され、思うように動けない不安や小さな子どもを抱え自由に遊ぶこともできなくなりストレスが溜まっている子育て世代に、今回当助成金を受け、OFUKUWAKEプロジェクト（フードパントリー）を立ち上げ、食材やおもちゃの配布をしました。また、この活動を通して改めて地域の繋がり・助け合いの大切さを感じることが出来ました。

スタッフ自身の感染リスクを抱えながらの配布でしたが、助成により消毒液などを購入することができ、リスク管理を徹底することができました。とてもありがたく使うことができました。

今後もこの活動を継続し、地域の繋がり・助け合いになる活動を目指したいと思います。



みんなでごはん（横浜市）

代表 三上 千代子

助成金額（第2次）100,000円

団体紹介

設立年月
2018年1月

団体の目的・活動内容

設立後は、チラシ掲示などにより参加者を募集して、その地域の方々みんなで紙芝居を観たり、ごはんを食べながらコミュニケーションをとる、といったような居場所づくりを目的として活動していましたが、コロナ禍により通常活動ができなくなり、2ヶ月ほどは連絡がとれた希望者へのフードパントリー活動に切り替えましたが、現在は生き生き市民基金さんの助成金により、飲食店さんと連携してお弁当を参加費100円にて配付しています。

活動歴

月に1～2回、地域のサロンやケアプラザでの、こども地域食堂を開催

団体情報

住所： 横浜市金沢区

Mail: cony11.422@gmail.com

★助成した事業・活動

地域食堂

★内容

みんなでうちごはん

★助成対象

食材費、容器包材費、感染対策費など

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

コロナ禍により、地域の中でも少しずつ役割を担いつつあった地域食堂の活動ができなくなりました。そんな時に、フードバンクかながわさんに助成金のお話を頂きました。私たちの団体名は「みんなでごはん」です。もちろん、みんなでわいわいと楽しみながら食べることは出来ませんが、「みんなで同じ弁当をうちで食べるのもいいよね。」とスタッフで案を出しながら、飲食店さんと連携して「みんなでうちごはん」という活動に変えることにしました。おかげさまで食を介したコミュニケーションをあきらめずに済みました。参加者の中には様々な困難を抱える方がいらっしゃいますが、対話を重ねることで笑顔が増しているように感じています。



団体紹介

設立年月

2017年6月設立

団体の目的・活動内容

一般市民、特に生活困窮者、ドメスティックバイオレンス被害者及び高齢者等の方々に対して、生活、住居及び自立の支援に関する事業等を行い、誰もが安心して生活できる社会づくりを目的とし、広く公益に寄与することを目的とする。

活動歴

相模原市内及びその近隣において主にフードバンク事業・生活家電バンク事業活動を行なっている。

団体情報

住所: 〒252-0243

相模原市中央区上溝1725-3

TEL: 042-813-6363

E-mail: info@npo-satella.or.jp

URL: http://npo-satella.or.jp

★助成した事業・活動

フードバンク、生活困窮者支援

★内容

ひとり親世帯などで、今回の新型コロナの影響により世帯収入が激減した家庭の子供たちの食を支援

★助成対象

食材購入費、ボランティア謝金

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

今回、助成をして頂きありがとうございました。フードバンクの活動は持ち出しが多く、地域で活動している小規模なNPOや団体はほとんど手弁当で活動しております。その様な中助成頂きました事、本当に助かりました。謝金としての支出が多いと思われるかもしれませんが、自分たちの為に使うのではなく、今後の食品購入に充当したり、協力者を募る為の広報活動などで持ち出しする予定です。今回は有難うございました。



たすけあい（小田原市）

代表 太田 実

助成金額（第1次）35,000円（第2次）50,000円

団体紹介

設立年月

2019年4月設立

団体の目的・活動内容

困っている人を助けること
病気や失業で生活できない。そんな困っている人に
わずかですが食べ物などをお渡しします。

活動歴

サロンなどで無料で食糧配布、フードバンクさんからの提供食品とかながわ生き生き市民基金さんからの助成金で購入した食料品などを生活困窮者に配達しています。

団体情報

住所：〒256-0816

小田原市酒匂4-5-40

E-mail: ootam242@gmail.com

★助成した事業・活動

フードバンク

★内容

困窮者やひとり親家庭、障害者、生活困窮者への食支援など

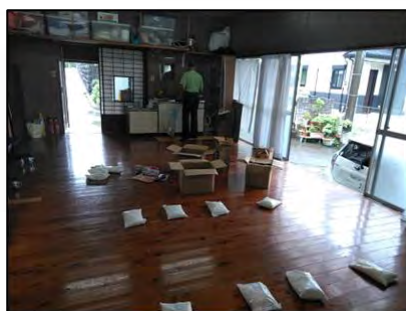
★助成対象

感染対策費、食材購入費、配送経費

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

コロナ助成第1次、第2次を受けることができて、
コロナウイルス感染拡大により困っている人やひとり親家庭、障害者、生活困窮者などのお困りの方に食材、食品、身の回りの品物などをスタッフが配達できるようになりました。

ひとり親家庭では「たすけあい」からのお菓子は子どもが喜んでいるそうです。冷凍果物（イチゴとかブルーベリー）、アイスが嬉しいそうです。常温で売っていて家で凍らせるチューチューアイスも喜んでます。まだ幼稚園の子もいるので子ども用のレトルトカレーも良かったです。頼れる親もなく、ママ友ともなかなか付き合える時間もなかった悶々と頑張っている方を少しでも見守っていつてあげられたら良いと思いました。



特定非営利活動法人ワンエイド(座間市) 代表 松本 かがり

助成金額 (第1次)100,000円 (第2次)100,000円

団体紹介

設立年月

2011年1月設立

団体の目的・活動内容

フードバンク、住まいのサポート、生活のサポート

活動歴

生活困窮者、高齢者、ひとり親家庭、障がい者などへの食糧支援、支援団体(子ども食堂、福祉団体)への食糧支援など

団体情報

住所: 〒252-0001

座間市相模が丘4-42-20

TEL: 046-258-0002

FAX: 046-259-9514

E-mail: own_aid@yahoo.co.jp

URL: <https://own-aid.com/>

★助成した事業・活動

フードバンク、

★内容

ひとり親世帯、高齢者、障害者など社会的弱者、困窮者に無償の食糧支援

★助成対象

感染対策費、ボランティア活動経費

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

新型コロナの影響で収入が減ったり、職を失う人が増えている影響で、食料を求める問い合わせが増え、緊急事態宣言により会社や学校は休みになりましたが、逆にワンエイドに支援を求める声は多くなりました。活動を休むべきか迷いましたが、感染の防止対策、参加者、スタッフの健康と安全を考慮しながら対策を練り活動を続けることにしました。この時いち早く、かながわ生き生き市民基金より連絡をいただき、この助成でパーテーションの設置ができ、第2次の助成のときも、コロナにより仕事を失くされた方々の就労がままならないという相談に、フードバンクでの有償ボランティアとして謝金を支払うことができました。

新型コロナの影響は落ち着いてきてはいるものの、一般家庭からの依頼は依然続いています。仕事は再開したが仕事が減り減給し生活が厳しいという声を聴きます。以前の生活のようにはいなくなりましたが、この状況を踏まえて、食料の支援を続けながら、これからも活動に尽力しようと思っています。

フードバンク事業

SOS



生活が苦しい方へ
食料品配布中！



団体紹介

設立年月
2017年10月

団体の目的・活動内容

市民の皆様や企業様からお裾分け頂いた野菜や果物・贈答品・規格外食品で賞味期限原則30日以上のご食品をご寄付いただき、市内の子供や高齢者向けの食堂や養護施設・生活困窮世帯を支援されている団体・無料学習塾様に無償でお届けし、有効活用されることで、フードロス削減し、地域とのコミュニケーションの拡大を推進しています。

活動歴

食材を必要としている団体や個人のメーリングリストやLINEグループ、Facebookグループを作成し、提供可能な食材を発信し、必要な方を把握し届けている。

食材提供を呼び掛けるため、Facebookやチラシなどを活用して発信している。

現在の主な活動

- ・バルシステムグループからの食材集荷(原則第2・第4土曜日)
- ・オギノパン様からの食材集荷と配送活動(毎週日曜日・第2・第4金曜日)
- ・フードバンク様からの食材集荷と配送(原則第4金曜日)
- ・相模原市資源循環推進課のフードドライブ品の集荷(1回/月)
- ・市民からの食材提供随時(月平均15か所)
- ・市民団体等への食材配送随時(月平均28回)
- ・扱う食材の数量(フードロス削減金額換算) 120万/月(年間平均1,440万円)
- ・LINEやFacebookグループでの情報交換や情報共有(例:食材の融通等)

団体情報

住所: 相模原市南区
TEL: 070-4481-4094
Mail: foodcommunity.1001@gmail.com
URL:
<https://foodcommunitysagami.hara.amebaownd.com/>

★助成した事業・活動 フードバンク

★内容 生活困窮者への緊急食材搬送

★助成対象 食材搬送費、食材仕分け及び事務作業費

助成を受けて...の思い・メッセージ

新型コロナの影響で、こども食堂や無料学習塾の開催が出来なくなりましたが、逆に仕事を失い生活に困窮される世帯が増え、食材の需要は例年の2倍近く増えました。

6月からは市内在学在住の大学生向け食材支援は市のこども・若者未来局主催で開始され、市内フードバンク団体としても支援を行いました。

フードバンクかながわ様にも通常月2回を、毎週提供いただき大変ありがたかったです。



団体紹介

設立年月

2020年6月

団体の目的・活動内容

新型コロナの影響により困窮を抱えた方々が更にひっ迫した状況に置かれている現状を鑑み、身近な地域に密着した細やかな食料支援活動を行えるよう新たな組織を立ち上げました。

活動歴

団体設立前は、スタッフ全員が前所属のNPO法人フードバンクでひとり親支援やホームレス支援等、食に困った方々への支援活動を行ってきました。これらの活動経験と人脈を生かして新たな活動を目指していく所存です。

団体情報

住所: 〒245-0067

横浜市戸塚区深谷町1252-13

ドリームハイツ3棟203号

TEL: 080-9201-4357

Mail: smile@fbh-minami.org

URL: www.fbh-minami.org

★助成した事業・活動

フードバンク

★内容

地域のフードバンクによる生活困窮者への食料支援事業

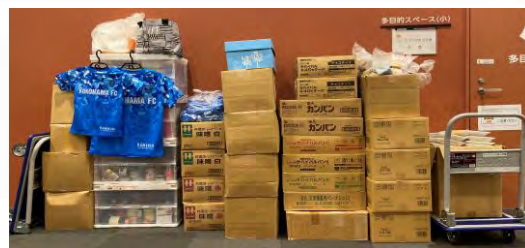
★助成対象

食材費、備品購入費など

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

コロナ禍のなか困窮を抱えているひとり親さんたちと接して、継続した食の支援と人とのつながりをつくっていく大切さを痛感し、何一つないところから私たちは出発しました。設立間もない時期に助成金をいただき、団体の活動に必要な備品類を揃えることができただけでなく、応援をいただいていることが何より励みになりました。心より感謝申し上げます。

食が乏しいことは大きな不安です。私たちにできることは限られていますが、食べ物を手にしてほんのひと時でもホッとしていただきたい、安心が幸せにつながるような食支援を目指していきたいと考えています。ひとりひとりの思いのこもった基金を活かして、顔の見えるあたたかい食支援の場をつくっていきます。



団体紹介

設立年月

2019年5月

団体の目的・活動内容

日本国民及び在日日系外国人並びに海外日系人諸団体会員に対して、技術・文化交流に関する事業を行い、国際交流、国際協力並びに国際理解教育の促進に寄与し、世界の自然環境の保全活動をすることを目的とする。

活動歴

VIVA! 110 de Yokohama (横浜でみんなで祝おうブラジル日本移民110周年)の開催

VIVA! 111 de Yokohama (横浜でみんなで祝おうブラジル日本移民111周年)の開催

VIVA! 112 de Yokohama (横浜でみんなで祝おうブラジル日本移民112周年)の開催

伊豆大島「富士見観音堂」(日系移民慰霊施設)の保全管理

団体情報

住所: 〒226-0014

横浜市緑区台村町314番地
第一秋元ビル2F

TEL: 045-935-1315

FAX: 045-935-1314

Mail: bsyokohama1908@gmail.com

URL: <https://www.brasilsolidario.yokohama/>

★助成した事業・活動

在日ブラジル人への食支援、相談支援

★内容

フードバンク事業、食糧等配布

★助成対象

運搬人件費、ガソリン代、マスク代

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

今回のフードバンク事業は弊団体において初の社会貢献活動となりました。このスタートアップに対して助成をいただいた事に大変感謝しております。

当初計画と比して思い描いたとおりにはいかない点も少なからずありましたが、弊団体ホームページに本事業実施の掲載を含め、日系ブラジル人等困窮者支援活動実施の告知を行なったところ、様々な外国籍困窮者からの相談が寄せられ、それに対応し解決していく中で貴重な情報や経験を得られました。また他の同様な活動を行っている団体等との協働をしていく契機にもなり今後の活動において、大いなる第一歩となりました。現在検討調査中の新規事業へ昇華出来るよう邁進してまいります。また、助成をいただける機会がございましたら、よろしくお願いいたします。



育ち合い広場 てとてとて(藤沢市) 代表 小川 智子

助成金額 (第1次)100,000円 (第2次)100,000円

団体紹介

設立年月

2017年7月設立

団体の目的・活動内容

<目的>

- ・子どもとの暮らしと向き合い地域と繋がり育ち合う事
- ・子ども達の豊かな感性や想像力を引き出せる環境を考
え育成を見守る事
- ・互いの人格を尊重し、各々が各々らしく生きる為の場所
作り

<活動内容>

- (1) 子どもとの暮らしと向き合う座談会。
- (2) 互いの特技や趣味を生かし、学び育ち合える場と
して「手等子屋(てらこや)」の開催。
- (3) 地域の自然の中で五感を使い、四季折々を感じなが
らの野外探検活動。
- (4) 「困った時はお互い様」分かち合い、助け合いのフー
ドバンク分配活動。環境問題にも取り組む。

活動歴

暮らしの座談会、居場所活動「てらこやはは」、年間
体験活動「てらこやであそぼう! まなぼう!」、かさ地蔵
プロジェクト

団体情報

住所: 〒251-0002

藤沢市大鋸(番地非公開)

TEL: 非公開

Mail: tetotetote2017@gmail.com

URL: <https://www.facebook.com/tetotetote2017>

★助成した事業・活動

かさ地蔵プロジェクト

★内容

親子との育ち合いを目的とした活動

★助成対象

ボランティア謝金、物品購入(外遊び)、
感染対策費など

助成をうけて...の思い・メッセージ

外出自粛要請が出されたあと、週一度の居場所に子
ども達がパタリと来なくなった。このままでは子ども達の
成長に影響が出てしまうと感じた。休校により、運動不
足など体の成長も心配だが、何より人と触れ合うことの
成長の場を失った子ども達はどう育っていくのか。ま
た四六時中家族が顔を突き合わせる事によるDVなど
も想定される。親御さんが仕事で外出中、ひとりで家に
居なければならない子どももいる。あの子は今、どう
しているのだろう。私達になにか出来る事はないかと考
えたとき、ちょうどフードバンクさんからくるみっこ提供
のお話があり、戸別訪問を思いついた。自分の他の仕
事時間(家事代行など)を削り、こちらの活動を優先し
ようと決めたとき、貴団体の助成と出会った。立場も形
も違うが「今、何かできる事を」という視点で瞬時に動か
れた貴団体の想いに深く共感した。

貴団体の助成を受け、感じたことは、地域活動そのも
のを存在まるとして支えてくださるということ。活動は、目
に見える物品ばかりではなく、人の手が必要。むしろ人
の手なしで活動はあり得ない。そこを理解してくださ
ったことが何より嬉しかった。

また、今までも感じていた世の中の様々な問題がコロ
ナ禍で浮き彫りになり、生活様式を見直す必要を感じ
た。人も自然の一部だと改めて感じ、自然に立ち返るこ
とが必要とされる中、使い捨てが推奨されるようになり、
ゴミを増やすことは根本解決には繋がらない。思い切っ
て使い捨てカップをやめた。そのような助成にも対応し
てくださったことに心から感謝している。



子ども学習支援グループ 須賀の寺子屋(平塚市) 代表 大野 文

助成金額 (第1次)100,000円 (第2次)100,000円

団体紹介

設立年月

2016年12月

団体の目的・活動内容

本人や家族の事情により家庭学習が十分に行いづらい状況で、学習塾等にも通うことが困難な小中学生を対象に、学校の宿題や授業の補習等の自主学習支援に関する活動を行い、学習の喜びと習慣を身につけ学力向上を目指すことで、夢や希望をもって進級や進学できるよう子どもの健全な育成を目的としています。

活動歴

市内の高校生や大学生および地元の大人たちによる毎月2回の個別学習支援を、小・中学生に無償で提供してきました。

団体情報

住所: 〒254-0802

平塚市札幌町46-4 大野方

TEL: 080-6626-2686

Mail: sukanoterakoya@gmail.com

URL:

<https://sites.google.com/view/sukanoteragoya>

★助成した事業・活動

無料学習支援活動

★内容

オンライン学習や郵送添削による学習支援

★助成対象

タブレット購入費、通信費、教材郵送料

助成をうけて...の思い・メッセージ

突然の新型コロナウイルス感染防止の休校で不安を抱えた子どもたちに寄り添う最善の方法として、教材の郵送添削とオンラインでの学習支援を計画しました。しかし、年度始めの資金不足な時に想定外の事業内容の変更と経費の増大でした。

そのような折に、かながわ生き生き市民基金様の緊急応援助成金を頂戴し、子どもたちへの支援と団体運営を継続でき、子どもも会員も大きな安心を得られました。厚く御礼を申し上げます。

なかでも、2回のZOOMの講習会によって、全支援員が共通の知識や技術を得られ、担当生徒の学習状況に合わせた教材によるサポートができました。特に、中学生を中心に実施したオンライン学習は、毎週2回の学習機会を設けて子どもと繋がりが続けることができ、これにより休校中の子どもたちの生活リズムを作り、学習の習慣を継続できたことは、学校再開に向けた準備としても一定の成果が得られたと思います。また、助成金をきっかけにオンライン学習支援活動を定着させ、新たな事業計画にも繋がりました。



特定非営利活動法人 湘南まぜこぜ計画(藤沢市) 代表 原田 建

助成金額 (第1次)100,000円 (第2次)100,000円

団体紹介

設立年月

2016年1月／法人認証 2018年9月

団体の目的・活動内容

すべての子どもたちが自分の意思で未来の選択ができる社会の実現を目指し、共生できるまぜこぜの地域コミュニティ醸成、社会課題の解決に向けた新しいデザインの創造が目的。

子どもの居場所での学習支援、孤食などの対応に「未来食堂」という提携飲食店を募り、子育て家庭への食事支援などを実施。周辺住民との遊び交流や地域活性化にも貢献。今年度は、別の地区で、空き家を活用して、地元町内会と協働での居場所事業をスタート。子どもの居場所に高齢者などご近所の課題発掘となるようなお茶のみサロンを併設する予定で、子どもに加え、多世代の困りごと等に対応する活動となっていく。

活動歴

2016年～子どもは誰でも来られる放課後の居場所「寺子屋ハウス」を毎週開催し5年目。2018年～幼稚園で多世代大人の文化祭を毎年プロデュース。不登校の子と保護者グループなどと米作り2年目。藤沢市「子どもと子育て家庭の生活実態調査」作成に協力。2020年子どもの居場所づくりを広げるためのシンポジウムを開催。

団体情報

住所: 藤沢市片瀬1-3-32

TEL: 090-5445-1160

Mail: terakoya@mazekeze.org

URL: <https://www.mazekeze.org/home>

★助成した事業・活動

子育て支援(居場所、子ども食堂、学習支援)

★内容

学習支援・居場所などの放課後支援

子育て家庭を飲食店と提携して支援

★助成対象

食材費、物品購入費、通信費など

助成を受けて...の思い・メッセージ

寺子屋ハウスは、近隣の子が誰でも来られる居場所ですが、様々な事情を抱える子の様子は普段から見えており、休校により行き場を失うのが心配で、それまでの週一開催を二回に増やし、無料の昼ごはん食堂を3月から開きました。元々、経済的事情で4月に引っ越しを予定していたのですが、コロナ対策で移転先の公共施設の閉鎖が延び、公園での開催という想定外の展開も、地元住民に温かく迎えられ、地域の中に存在する子どもの居場所の意義を再確認できました。

学校の再開後も給食再開が遅れたので、寺子屋の子だけでなく、飲食店に協力を呼びかけて市内全域を目指した「子ども弁当」を始動。学校が各家庭に紹介して、食堂を運営するNPO、社会福祉法人等にも協力が広がり、夏休みにも継続出来ました。

子どもたちの突然の困難に、自分たちだけでなく、様々な地域の協力を求め、その輪が広がった事が何よりでした。



団体紹介

設立年月

1996年3月

団体の目的・活動内容

障がいの有無、年齢、性別、国籍など社会的立場に関係なくすべての人がクリエイティブであることの顕在化、実践。

活動歴

- 1996年 福祉施設への出張アトリエ開始。
- 1998年 かながわゆめ国体において神奈川県社協と横浜市社協主催のしょうがい者アートイベントを企画。
- 1998年～1999年 サンフランシスコ障害者アートセンターにてコラボレーション。
- 2008年 「近江八幡お茶の間ランド」にちょっと寄ってくれはらへん？ ～ふつうの町のキュートな日常～」を企画。（ボーダレス・アートミュージアム NO-MA）
- 2009年～毎年夏に、横浜下町パラダイスマつり＋よこはま若葉町多文化映画祭を企画。
- 2010年 映画館「シネマジック&ベティ」のとなりにアートスペース「横浜パラダイス会館」を開設。
- 2015年～ 近隣のこどもたちに無料で「横浜パラダイス会館」を開放。
- 2019年 キッチンを整備して本格的にこども食堂を開始。

団体情報

住所：〒231-0056

横浜市中区若葉町3-51-3-101

横浜パラダイス会館

TEL：非公開

Mail：artlabova@gmail.com

URL：https://www.facebook.com/kidsinparadiseshall

★助成した事業・活動

海外につながる子どもと親への支援活動

★内容

こどもたちへの配食・学習支援・余暇支援・外国出身の保護者への情報の提供と書類記入の支援、新しい生活様式の中でオープンするこどもの居場所事業

★助成対象

食材費、物品購入費、ボランティア交通費

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

早い段階から継続的にご支援いただき、大変助かりました。事務局の方も親切で気軽に相談することができました。

ネットでの申請が可能であったり、毎回報告書を提出する必要がなかったのも、感染症対策で以前の倍以上に仕事が増えたスタッフの負担が少なく済みました。特に扇風機などの物品を購入することもできるなど、汎用性がある助成金だったので、刻々と変化する現場の実態に即した活動をすることができました。

関係者のみなさまに心から感謝をいたします。



特定非営利活動法人 青空保育ぺんぺんぐさ (横浜市)

代表 森 耕太郎

助成金額 (第1次) 100,000円

団体紹介

設立年月

2012年3月

団体の目的・活動内容

自然の中でのびのびと自ら育つ力を尊重した保育事業の中で、保護者とともに親子の育ち合いを支えるコミュニティを作ることが目的とする。また、地域の一般親子や一般の幅広い年齢層にむけて、乳幼児期の外遊び・自然体験の大切さや、青空保育事業の実践を伝える活動を通して、「ひとり子育てしないで」を合言葉に人のつながりによって安心して子育てできる地域づくりに貢献、子育て支援事業も行う。小学生以上の子どもたちに対しては、自然体験活動の事業を行ない、健全育成に寄与する。

活動歴

- ・任意団体として発足し、2018年9月にNPO法人格を取得。
- ・1歳半から未就学の子どもを対象に、保育者の元での預かり保育に保護者も交代で加わり保育活動を行う。
- ・外遊び体験会(毎月)、講演会(年複数回)等を開催し、参加者は8年間で延べ1430人。
- ・メディア掲載(クレヨンハウス「クーヨン」・「いいね」、NHKラジオ出演、NHKBSプレミアム「美の壺」、地域webメディアへのコラム連載、等)
- ・地域の団体と交流・連携しながら乳幼児期の外遊びの大切さの発信とのびのび育児の輪を地域に発信している。

団体情報

住所: 非公開

TEL: 090-9147-3027(内藤)

Mail: aoba.penpengusa@gmail.com

URL: <https://jisyuhoikupenpengusa.blogspot.com/>

★助成した事業・活動

「つながり」と「外遊びのコミュニティ」の継続

★内容

オンライン子育て相談会・おしゃべり会「オンラインあそぼう会」の開催

★助成対象

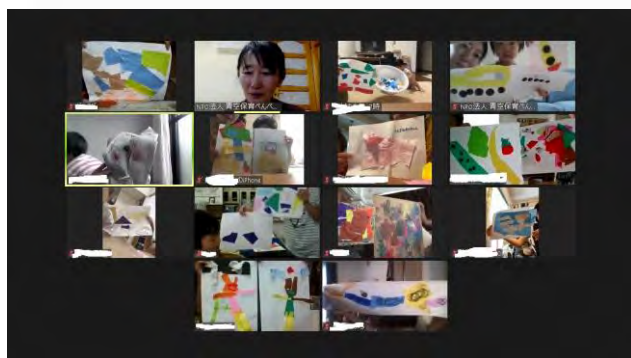
オンライン機器購入費、講師謝金、通信費

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

コロナ下で、実際に顔を合わせて心を通わせることが難しくなり最低限必要なことは、「つながり」であることを認識し、「安心感・つながり・おたがいさまののびのび育児」を継続していくために尽力しています。

少しずつ直接的な触れ合いも再開していますが、完全に取り戻せていない現状ではオンラインという間接的な方法の必要性も感じています。貴助成により充実した設備を活用し、オンラインのイベントや相談会を継続的に開催し、地域でのつながりに加え、地域を超えたのびのび子育ての輪をさらに広げて悩みを抱える母親たちに寄り添っていきたいと思っています。

この困難を、より多くのひとに思いが届くチャンスととらえ、発信を継続していきます。直接的な地域支援も少しずつ再開し、これまで本会が大切にしてきた、人のつながりによって安心して「お互いさまだから」と言い合える子育てができるまちづくりに寄与していきたいと思っています。
ありがとうございました。



団体紹介

設立年月
2018年8月

団体の目的・活動内容

<活動目的>

『すべての子ども子どもたちが夢や希望の持てる社会へ』

- 置き去りにされている子どもたちの実態の把握、どのような手助けが必要かの把握
- 課題を抱えている親子の早期発見、行政へのつなぎ支える
- 子どもたちの居場所づくりの必要性を社会に訴え、働きかける

<活動内容>

- ・通常
毎週水曜日・土曜日16:00-18:00 対面 *年間複数回
イベント開催 相模原市中央区千代田4丁目自治会館
- ・現在(新型コロナウイルスによる)
毎週土曜日10:00-12:00 Zoom (webページより予約)

活動歴

2018年8月より活動開始。
「子どもの居場所づくり」を目的としている団体として、今までに合計100回以上累計1000人弱の子どもたちが参加。
大学生や現役教員による学習支援。
夏祭りやハロウィーン、クリスマス会などのイベントを開催。

団体情報

住所: 〒252-0237

相模原市中央区千代田4-11-9

TEL: 042-769-0564

Mail: kodomohiroba.well@gmail.com

URL: <https://www.kodomohiroba-welcom.com>

Instagram:

<https://www.instagram.com/kodomohiroba.welcome/>

Facebook:

<https://m.facebook.com/kodomohiroba.well/?ref=bookmarks>

★助成した事業・活動

無料学習支援活動

★内容

オンライン学習支援

★助成対象

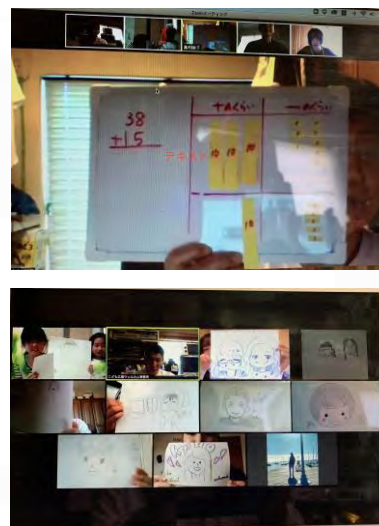
オンライン費用、物品購入費など

助成を受けて...の思い・メッセージ

助成を受けることでwebページを作成し、オンライン活動を開始することができた。これは新型コロナウイルス感染拡大に伴って活動が対面で行うことができないということに対応してのことである。

今回の助成を受けて、webページとZoomアカウントの準備、Zoomの際に活用するホワイトボード、ホワイトボードマーカー、オンライン工作教室の材料費などを揃えることができた。それによって何も支援できなかった子どもたちや大学生に対してコミュニケーションの機会、学習の機会を提供することができ、とても有意義な活動をすることができた。オンラインを軸にした上で、今できることと照らし合わせながらホワイトボードのようなオンラインに詳しくなくても活用できるものを工夫してうまく織り交ぜられたのではないかなと思う。

これからも活動を継続してノウハウを蓄積することで、マニュアルのようなものを作成していき。活動を広げていくことができたらと思う。



団体紹介

設立年月

1997年4月

団体の目的・活動内容

外国につながる中高生を中心にした日本語・教科サポートから、彼らの安心出来る居場所として、話の場、交流会なども大事にしている。

活動歴

- 1984年 前組織の中国残留孤児の子ども達の教室として発足。
- 1997年 前「ユッカの会OB」活動の中で「トマトマ教室」開室
- 2009年 「TIEトマトマの会」発足、外国につながる主に中・高生を中心とした日本語・教科指導等
基本的にマンツーマン対応を全員ボランティアサポーターにて活動
毎週日曜の午後、かながわ県民サポートセンターにて実施

団体情報

活動場所

かながわ県民サポートセンター(横浜駅西口)

Mail: noriko-noko@ozzio.jp

★助成した事業・活動

外国人につながる日本語・学習指導

★内容

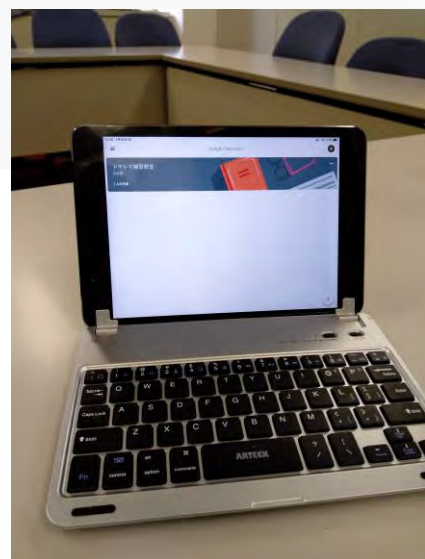
トマトマ学習教室の実施、リモート学習・試行

★助成対象

会場費、オンライン費用(機材、通信費)

助成をうけて...の思い・メッセージ

コロナウィルスの感染拡大により、長く教室の場としていたセンタースペースが閉鎖となり、外国ルーツの子ども達の日本語教科等の勉強が難しくなった時に、この助成金により、有料の場で近いところに借りることが出来、何とか活動が続けられました。生徒達も学校へ通うことさえ少なくなった中で、ほっとした様子で又集まり出し、各々の状況、必要に応じたりモート学習も学習アイテムの一つとしてこうした中で有効なことに気づきました。ありがとうございました。



コミュニティカフェ6丁目クラブ(鎌倉市) 代表 並木 りつ子

助成金額 (第2次) 100,000円

団体紹介

設立年月

2016年9月

団体の目的・活動内容

この会は鎌倉市今泉台の子供から高齢者までが安心して住み続けられるように支援することを目的とします。コミュニティカフェ6丁目クラブを運営しながら、高齢者の介護予防・配食サービス・放課後の子供たちの居場所として開放しています。

活動歴

月曜日から土曜日まで ランチ・コーヒーの提供
(8月・年末年始・日曜祝日休み)

団体情報

住所: 〒247-0053

鎌倉市今泉台6-1-9

TEL: 0467-91-7300

Mail: hirosemamakazuko@jcom.zaq.ne.jp

URL: <https://ja-jp.facebook.com/6chomeclub/>

★助成した事業・活動

コミュニティカフェ、多世代の居場所

★内容

コロナ対応 コミュニティカフェ6丁目クラブと放課後クラブの活動

★助成対象

感染対策費、講師謝金

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

こんなことが起きる想定は全くなく、前代未聞で体験がない事でした。コロナにも対応が始まりこの2次助成は6月に再開を目指していた私達にとって、有難い助成となりました。考えていた除菌対策はすべて出来上がり、人数は制限しましたがお客様が入って「居場所」が帰ってきました。嬉しい人の交流で私たちが元気になることが出来ました。元気でない人にお弁当を届けるのも、高齢者の集まりができるのも嬉しかったことです。この小さい活動ですが、たくさんの声援を受けた気分で頑張っていきたいとスタッフ一同感謝しています。ありがとうございました。



団体紹介

設立年月

2003年10月

団体の目的・活動内容

親を支援することの先にある子どもたちの健やかな成長、生まれてきたすべての子どもたちが自分自身を大切と感じ、幸せに育つことを願い、「子育て支援は親支援」を合言葉に、地域に根差した活動を行っている。

活動歴

親子のフリースペース・ランチ会・不登校の親の会・親子工作・おかし作りワークショップ・小学生のひろば(長期休み時に開催) 未就学児の一時預かり保育など

団体情報

住所: 〒253-0041

茅ヶ崎市茅ヶ崎234-1

TEL: 090-6560-8530

Mail: tannpopohiroba@gmail.com

URL: <https://www.facebook.com/npotanpopohiroba/>

★助成した事業・活動

居場所「たんぽぽはうす」の運営

★内容

小学生のひろば

★助成対象

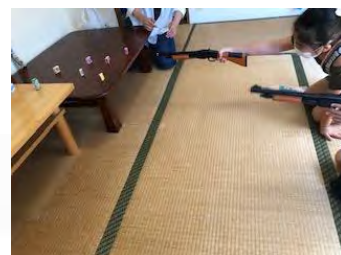
企画費、広報費

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

今年は、新学期からの長い休校期間、短い夏休み、学校行事の中止など子ども達にとって異例の小学校生活となってしまいました。そんな中、子ども達の心が少しでも開放できる場を提供したいと、今回の助成金を受けて、小学生のひろばを開催させて頂きました。

助成金で、夏休みにはなってしまいましたが、進級祝い品を購入し、みんなで進級した喜びを分かち合ったり、子どもの興味をひくような玩具を購入することができたので、短い時間ではありましたが思い思いに楽しい時間を過ごすことができました。違う学校の子ども達同士もすぐに仲良くなり、一緒に時間を過ごすことで、年上の子が年下の子の面倒をみてあげている姿も見られ、自然な交流がうまれていました。

学校以外に、地域で子どもたちが集まり交流できる場の必要性をとて感じました。助成金を頂いたことで、子ども達が楽しい時間を過ごせたこと、笑顔がたくさん見られたことに感謝致します。ありがとうございました。



特定非営利活動法人アスリード(横浜市) 代表 武政 祐

助成金額 (第2次) 100,000円

団体紹介

設立年月

2019年9月20日

団体の目的・活動内容

「すべての若者が自分の可能性を信じて、未来(あす)を描ける社会を創る」というビジョンのもと、神奈川県内で学ぶ中学生・高校生を対象にキャリア教育支援を行っています。

活動歴

・みらいteacher・・・中学校・高等学校で行う職業講話や職場体験の企画・運営・コーディネートをしています。前身のさくらノートを含む平成27年～令和元年までに120校で実施、12,000人の中高生に将来の選択肢を広げてきました。

・校内居場所カフェ・・・川崎市立高津高等学校定時制において、退学予防と進路未決定者支援を目的に、毎週水曜日「SAKURA ♣ café」を運営しています。これまでに1,500名以上の生徒が利用し支援を行っています。

・キャリア教育支援誌「みらい百花」の発行・・・生き活きと働く大人たちの仕事内容や、どうしてこの仕事を選んだのかなど40名以上の人生ドラマが詰まったキャリア教育支援誌「みらい百花」を発行。横浜・横須賀・川崎・相模原・藤沢・町田にある中学・高校、約400校70,000人の若者へ無料配布。「総合的な学習の時間」の教材として活用しています。

団体情報

住所: 〒236-0045

横浜市金沢区釜利谷南3-15-17

TEL: 045-325-8801

Mail: info@aslead.org

URL: https://aslead.org/

★助成した事業・活動

中学校・高等学校で行う職業講話や職場体験の企画・運営・コーディネート

★内容

オンライン職業講話

★助成対象

交通費、通信費、印刷費

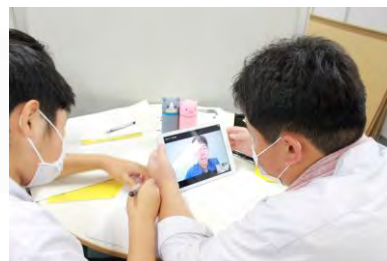
助成を受けて・・・の思い・メッセージ

この度は助成いただき誠にありがとうございました。温かいご支援のおかげで177名の中学生にあり方・生き方・生き抜く力を育むキャリア教育をオンラインという形で届けることができました。またメディアにも取り上げられたことで、多くの学校より「オンライン職業講話を実施して欲しい」と要望を頂いております。

少子高齢化が進む中、一人ひとりの活躍が求められる時代ですが、自己肯定感が低く将来に希望を持ってない若者が多く存在します。子どもたちに今必要な教育は、生き活きと社会で活躍する大人とたくさん出会い、自分の中に多くのロールモデルをつくることで、どんな人生を歩みたいのか、そのために今できることは何なのかを考えるキャリア教育です。

今回の助成がなければ「オンライン職業講話」という新たなキャリア教育のカたちを生み出すことは出来ませんでした。改めてご支援くださいました皆様に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

これからも日本の明るい未来を担う若者のため活動してまいりますので、応援の程宜しくお願い致します。



団体紹介

設立年月

2019年5月設立

団体の目的・活動内容

ラフェリーチェは、すべての女性と子ども達が夢と希望を思い描ける社会を目指して設立しました。主に、①DV・虐待被害者の救済支援 ②ひとり親世帯をはじめとした貧困世帯の子ども達への教育支援を活動内容に掲げて活動していました。2020年3月には、①部門は独立して、NPO法人DV対策センターとなりました。現在、ラフェリーチェは、①子ども達のための教育イベントの開催(月に一回、プログラミング教室など)②平日週に3日の学習支援・居場所支援・食事提供支援を行っています。そのほか子どもの心理に詳しいカウンセラーが常駐し、思春期のお子さんや子育てに悩む親御さんの悩み相談も行っております。

活動歴

- 毎月1～2回子供向けおよび親子向けイベントの開催
- 平日の学習支援・居場所支援・食事提供支援
- 家庭における悩み相談、お子さんの悩み相談業務

団体情報

住所: 非公開

TEL: 080-6708-0773 担当: 穂志乃

URL: <https://lafelice.yokohama>

★助成した事業・活動

母子家庭等貧困世帯の居場所、学習支援

★内容

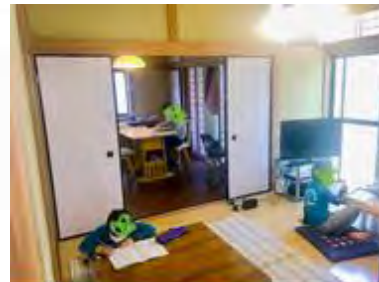
DV・虐待被害者世帯及び母子家庭等貧困世帯の子ども達の学習支援・居場所支援・食事支援

★助成対象

食材費、ボランティア交通費

助成を受けて...の思い・メッセージ

ラフェリーチェでは、家庭における経済の差が、教育格差につながることを避けたいという願いの元、ひとり親世帯をはじめ貧困家庭や事情を抱えた世帯の子ども達への教育支援を行っています。特にコロナの影響を受けて学校が休校となっからは、平日の週3日、学習支援・居場所支援・食事提供支援を行ってきました。子ども達の中には、誰にでも必ず知的好奇心が宿っています。知らなかったことが分かった!!できなかったことができた!!という体験を重ねるうちに、それらは必ず大きく育っていきます。なんのために勉強するの?や、どんな大人になりたいの?から、ゆっくりと対話を深めて、本人が納得した気持ちで学習をしております♪最初は、楽しい場所、安心できる場所と思ってもらうことからスタートです☆不登校のお子さん、発達障害のお子さんも受け入れています。



ホームスクーリングで輝くみらいタウンプロジェクト（藤沢市）

代表 小沼 陽子

助成金額（第2次）100,000円

団体紹介

設立年月
2017年1月

団体の目的・活動内容

<目的>

家庭を起点として学ぶホームスクーリングをしやすい環境を整えることで、学校だけでなく学びの選択肢がたくさんあり、それぞれの親子が自分の子供にあった学びを安心して主体的に選択できる社会づくりに寄与することを目的としています。

<活動内容>

私達の考えるホームスクーリングは家庭の中だけで学校のように勉強をする教育ではなく、つながりを作り地域資源を活用して学ぶ教育方法です。親同士・子供同士・地域の方々・行政・学校の連携を強化するための様々な仕組みを作り、それぞれの親子が学校だけにこだわらず安心して「自分で考え・自分で選び・自分で学べる」環境を整えて、藤沢市にホームスクーリングタウンを作っています。

活動歴

不登校やホームスクーラーの親同士が集まり、ゆるく繋がりがいながら支え合い、みんなで成長していく場と『朝カフェ』を2018年5月から毎月開催しています。現在朝カフェメンバーは74名。メンバー同士で日々情報や悩みを共有しながら、オンライン含めた勉強会を定期的に開催。100人前後の参加者を集めたセミナーも過去4回開催し、地域や社会への啓蒙活動を行っています。

団体情報

住所： 非公開

Mail: hsmiraijp@gmail.com

URL: <https://homeschooling-town.com>

Facebook

<https://www.facebook.com/HSkagayakumiraiPJ>

★助成した事業・活動

不登校やホームスクーラーの親子を対象とした交流事業、セミナー事業

★内容

不登校やホームスクーリング親御さんの交流会

★助成対象

オンライン機器の購入、講師謝金など

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

新型コロナウイルスの影響を受けて、「これまでの活動ができない」「何をしたら良いのか」と、不登校当事者グループである私達自身が沈みがちでいました。

しかし、助成を受けたことで「みんなで何かやろう！」という気持ちに転換でき、講師をお招きしたリアル勉強会をウィルス対策をしつつ開催できたことがありがたかったです。

『自由をどう生きるか？ゲーミフィケーションから考えよう！』では、普段、参加されない父親に多く参加いただき、「子供とどう向き合うか」を父親交えて考え、次に繋がる貴重な会となりました。オンライン企画もZoom無料版は40分で切れてしまい、とても不便でした。今回有料版が利用可能となり、時間を気にせず企画を組み立てることができる上、気軽にオンラインで話し合えるようになり、活動が拡がりました。

今回の助成金で、私達の活動を前向きに転換できたこと、心より感謝いたします。ありがとうございました。



団体紹介

設立年月

2010年1月

団体の目的・活動内容

団体の目的: CoCoLoの会は、東逗子の沼間で、地域のお力をお借りしながら、子どもたちの成長をサポートする活動を行っている。

活動内容: 学習支援・不登校支援

活動歴

学習支援活動、不登校支援活動を10年行ってきた中、2020年より完全無料化のチャレンジを開始。（助成金等なし）。子ども達の「困っている」を少しでも軽減させるべく、認知特性に合わせた学習指導も行ってきた。現在は不登校の子ども達のサポートが中心となっており、地域の学校とも連携し、CoCoLoの会での過ごしが学校の出席扱いになっている。

団体情報

住所: 〒249-0004

逗子市沼間1-4-43キリガヤラボズ1階

TEL: :090-3816-6780(代表: 吉原)

Mail: cocolonokai@gmail.com

URL: <https://cocolonokai.com/>

★助成した事業・活動

不登校支援活動

★内容

コロナ禍だからこそ生まれた教育現場での様々なチャレンジ

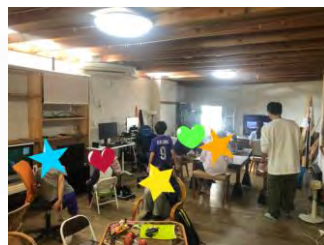
★助成対象

オンライン機器購入費、感染対策費

助成を受けて...の思い・メッセージ

今回、ピンチをチャンスに変えるべく教育現場を考えた結果、助成のおかげで大きな飛躍ができたことは間違いありません。密を避ける工夫を考えた時、室内活動だけで完結させるのではなく、ご家庭も含めた広い範囲をCoCoLoの会と考え、オンラインでつながりながら子ども達とのコミュニケーションを継続していきました。

そんな中、オンラインにご両親も加わってくださるなど、CoCoLoの会とご家庭が一体化していくことにより、ご家庭での改善点が見えやすくなり、そこを一緒に解決していくことで、子ども達の様子が見るみる変化していきました。改めてご家庭（特にお母様）の変化が子ども達に大きな影響を与えることを実感したとともに、これからもご家庭がもっと楽しくなるようなサポートと、子ども達がありのままの心で安心して過ごせる場所を増やしていけるように努めていきたいと思っております。



NPO法人子どもと共に歩むフリースペースたんぽぽ（横浜市）

代表 青島 美千代

助成金額（第2次）100,000円

団体紹介

設立年月

2008年5月1日 設立

2014年5月1日 NPO法人設立

団体の目的・活動内容

- ・不登校の子どもたちが安心して、誰でもが自分らしく楽しく過ごせる居場所。
- ・子どもたちがみんなで話し合っ、様々な活動を作っ、様々な体験をする。

活動歴

- ・食事作り ・アート体験 ・個々に応じた学習 ・平和学習旅行 ・書初め ・スポーツ体験
- ・餅つき ・美術館鑑賞 ・落語体験 ・LINE講習会 ・地域の作家を招いて話を聞く
- ・労働法の勉強会 ・性教育

団体情報

住所： 〒230-0061

横浜市鶴見区佃野町1-7 深谷ビル202

TEL: (045)834-7970

FAX (045)834-7918

Mail: info@freespace-tanpopo.com

URL: <https://www.freespace-tanpopo.com/>

★助成した事業・活動

不登校の子どもたちの居場所

★内容

コロナ禍での子どもや若者の居場所の活動

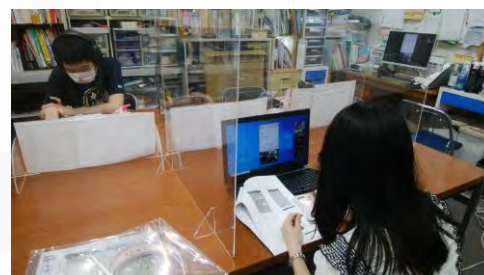
★助成対象

感染対策費、ボランティア謝金

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

コロナ禍において、今まで不登校だった子どもは、短時間登校・少人数登校の期間は登校できる子もいたが、日常を取り戻し、窮屈なカリキュラムが始まると再び登校できなくなった。逆に再開しても不安など様々なことで不登校は増え、相談も増加した。3密を避け、できるだけ対策を取り安心してたんぽぽに来てもらうためには、アクリル板の設置やフェイスシールド・消毒剤の購入が必だった。しかし、たんぽぽもしばらく閉鎖したり時間短縮してきたので、収入は半減し必要な物品を購入する予算はなかった。幸い緊急応援助成を得られたので、安心して活動できる環境が整えられた。

私たち零細なNPOにとっては応募してすぐに頂ける助成金は、活動の支援ということでは本当にありがたいものでした。



一般社団法人 みんなのレモネードの会(横浜市) 代表 榮島 佳子

助成金額 (第1次)50,000円 (第2次)50,000円

団体紹介

設立年月
2020年4月設立

団体の目的・活動内容

当法人は、小児がんの啓発活動、小児がん患児・きょうだい児・患児家族の支援に関する活動を行い、もって小児がんを取り巻く環境改善に寄与することを目的とし、次の事業を行っています。

- (1)小児がん啓発のためのレモネードの販売
- (2)小児がん患児等及びその家族を対象とした交流イベントの企画、開催及び協力
- (3)小児がん啓発のためのイベントの企画、開催及び協力
- (4)小児がん啓発のための印刷物やグッズ等の企画、制作及び販売
- (5)小児がん啓発のための講演活動
- (6)小児がん患児等及びその家族の宿泊施設、イベント交流施設、飲食店等の運営
- (7)小児がんやAYA世代のがんの経験者等の就労支援
- (8)その他当法人の目的を達成するために必要な事業

活動歴

2016年より任意団体として活動を始めた「みんなのレモネードの会」は、2020年4月15日に「一般社団法人みんなのレモネードの会」となりました。小児がん患児家族の立場から、「小児がんのことをもっと知ってほしい」「患児や患児家族で繋がりたい」と、小児がん啓発活動、患児やその家族の交流会などを開催していましたが、法人化後はその活動をより幅広く行い、必要な支援を充実させていきたいと思っています。2020年春からは新型コロナウイルスの影響により、イベントや交流会のオンライン化に取り組んでいます。

団体情報

住所: 〒220-0073
横浜市西区岡野1-6-48-402
TEL: 非公開
E-mail: makelemonade-37gogo@yahoo.co.jp
URL: <https://minnanolemonade.jimdofree.com/>

★助成した事業・活動

小児がんを経験した児童と家族の当事者会

★内容

- (第1次)オンライン化の整備
- (第2次)小児がん患児・きょうだい児への夏用布マスクの配布

★助成対象

オンライン活動費用、マスク作成費用

助成をうけて...の思い・メッセージ

日々治療や後遺症、再発の不安を抱え孤立しがちな小児がん患児家族が、コロナによりさらに孤立しないために、交流イベントをオンライン化で続けていくことは大切なサポートとなりました。

小児がん経験者の子どもたちは、体力がなく、体温調節が難しい、暑さに弱い子どもたちが多くいます。また、「基礎疾患」があるために、感染を避けるために、マスクはなるべく付けていなければなりません。当事者、患児家族の会だからこそ、寄り添える必要な支援を行うことができました。

困難を抱える人々は、新型コロナウイルスの流行により、より困難な状況に置かれています。それをサポートしていた団体も、新型コロナウイルス流行の影響を受け、イベントや募金活動の場を失ったり、企業や個人からの寄付金も少なくなっています。支援が必要なのに支援ができないという状況がありましたが、かながわ生き生き市民基金様よりご支援して頂き、活動や支援を継続することができました。本当にありがとうございました。



特定非営利活動法人ひだまりの森（横浜市） 代表 林 順子

助成金額（第1次）100,000円（第2次）100,000円

団体紹介

設立年月

2006年4月3日

団体の目的・活動内容

- ・子育て期の母親の支援が子どもの健全育成に繋がると考え、相談を軸に活動。
- ・年間、電話相談件数1900件以上・グループ相談・対面相談・研修実施
- ・併せて相談から見えるニーズ・課題を冊子や統計にまとめ情報発信

活動歴

元横浜市乳幼児家庭教育センター相談員で法人設立。横浜市男女共同参画推進協会受託「子育て期の相談事業(2006.4～2010.3)」の後、自主運営相談室開設、現在に至る。

コロナ禍においても当緊急応援助成第1・2次を受け新型コロナ対応の相談体制を整え、従来の「子育て期の相談」と共に活動を途絶えることなく実施している。

団体情報

住所：非公開

TEL: 045-341-3607

Mail: hidamarimori1154@sky.hi-ho.ne.jp

URL: <http://hidamarinomori10.blog.fc2.com/>

★助成した事業・活動

子育て期の相談事業

★内容

新型コロナウイルスで不安を抱えている母親のための心の相談

★助成対象

ボランティア活動経費、通信費など

助成を受けて…の思い・メッセージ

新型コロナウイルスの影響が母親と子どもに様々な形で出ていることが電話相談を通してダイレクトに伝わってきています。苦しい状況下でも新しい生活に順応しようとしている一方、表面には出せないストレスが親子にジワジワと蓄積されています。「子どもの不登校・問題行動」「親のうつ等精神疾患」「経済的な不安」と深刻さが増しているのを痛感しています。

発信力・情報収集力の弱い方ほど孤立しており、身近な電話相談の存在が困難を抱えている方の支えとなっています。母親と社会との接点となり孤立を防ぐことで、子どもの健やかな成長の一助となっていきたいと当事業を通して強く思っています。

更に新型コロナウイルスによる影響が広がることが懸念されるため、ニーズに合わせて事業を見直しながら継続をしていきたいと考えています。いち早く当助成制度を立ち上げてくださったことに改めて感謝申し上げます。



親と子の寺子屋ふれあい自遊塾(平塚市) 代表 加藤 啓子

助成金額 (第1次) 55,000円 (第2次) 90,000円

団体紹介

設立年月

2015年10月

団体の目的・活動内容

いじめ、暴力など増え続ける子供の諸問題の予防と軽減、回復を目的に、親子仲間と楽しくかかわる機会を提供、心の育ちを応援する。活動の中心は遊びのエッセンスが凝縮されるボードゲームを活用した心理教育的体験活動。プログラムは臨床心理士グループが企画構成している。

活動歴

公民館、ひらつか西海岸デポーで定期的に活動、夏休みゲーム大会の開催、子どもの発達成長には遊びが必須であるとの啓発活動として地域イベントに積極的に参加、出張ワークショップ、ゲーム貸し出しと販売、エコロ講座、個別相談など

団体情報

住所: 平塚市(非公開)

TEL: 070-2629-1986

Mail: jiyujyuku.koyurugi@gmail.com

URL: <http://jiyujyuku.main.jp/main/>

★助成した事業・活動

いじめ、不登校などの予防、遊びの重要性を啓発、研修、相談事業

★内容

子どもを持つ母親などを対象とした相談事業、ボードゲーム貸し出し事業

★助成対象

広報費、通信費、物品購入費

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

コロナ禍により学校が休校となった3月、私たちはボードゲームの無料貸し出しを始めました。ブログでは臨床心理士の立場から心の支援として緊急事態でのストレス反応とその対処について発信し、その後電話相談、ゲームの貸し出しを企画、助成をいただきました。

案内チラシには先の見えない不安と恐怖、閉塞感が心身の不調、とりわけ子どもに及ぼす影響について様々にアナウンス、ブログ閲覧も急に増えました。「子どもが突然泣き出し親も不安になったが気がラクになった」、「貸し出しはとっても助かる。家族で楽しめた」と好評でした。また心のつながりにはメールよりもチラシ郵送が有用なことを実感しました。電話相談は身近な相談として全国規模のものと比べ引けを取らないのではと自負しています。

これからも長引くコロナ禍への心の支援を続けたいと思います。ありがとうございます。



特定非営利活動法人 湘南DV サポートセンター (藤沢市)

代表 瀧田 信之

助成金額 (第2次) 100,000円

団体紹介

設立年月

1999 年 4 月

団体の目的・活動内容

専門家とユースリーダーの協力により、女性、子ども、障がい者、外国人等幅広い分野で暴力の被害者支援、暴力防止を中心とした人権に関する広報啓発及び教育普及活動を行うとともに、人権意識の向上、次世代の人材育成を推進し、もって人権の擁護、男女共同参画社会の形成等の公益の推進に寄与することを目的とする団体である。

活動歴

- (1) 広報啓発事業①「それ、恋愛じゃなくてDVです」(WAVE 出版 2009 年 4 月)出版②情報発信
- (2) 人材育成・研修教育事業①ユースリーダー養成②講師派遣・専門家対象研修③野外体験プログラム
- (3) コミュニティ支援・連携事業①高齢者向け避難誘導員養成講座②総務省委託 暴力防止ワークショップ③支援者のネットワーク構築④神奈川県・文部科学省委託 いじめ防止プログラム指導者養成講座
- (4) 被害者支援・相談事業

団体情報

住所: 〒251-0044

藤沢市辻堂太平台 2-2-3-102

TEL: 090-4430-1836

Mail: tryton@kodomo-support.org

URL: <http://kodomo-support.org/>

★助成した事業・活動

DV被害者支援

★内容

非常事態に動揺する子どもたちを支えられるユースリーダー育成事業

★助成対象

印刷費、会場費、ボランティア活動費など

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

DV、虐待、デートDV そしていじめ等の暴力防止に取り組むにあたり、起きてからの支援はもちろんですが、なによりも10 代の子どもたちに「被害者にも、加害者にもならない」という予防教育を届けることが大切です。それを伝えるには大人や専門家だけでは難しく、より当事者に年齢が近い「ユースリーダー」の存在が必要です。おりしもコロナ禍で多くの子どもたちが不安を抱えたままの生活が始まりました。

彼らの不安に寄り添える人材、またロールモデルとなり得るユースリーダーの育成に助成いただいたことは大きな意義があり、またタイムリーでもありましたことをご報告いたします。



特定非営利活動法人ファミリア(横須賀市) 代表 高橋 嘉誉

助成金額 (第1次)100,000円 (第2次)100,000円

団体紹介

設立年月

2018年9月(任意団体は2010年)

団体の目的・活動内容

この法人は、知的障害及び発達障害を持つ子供と家族を支援すること、支援の質を発展向上させること、および地域の人々を啓発し、理解ある地域社会を作ることをめざし、多世代多種多様な人々がそれぞれにできることで役割を持ち、協力し合える仕組みや場所、機会を作り、暮らす人々が心豊かで感謝と思いやりの気持ち、そして信頼感でつながる社会を作ることを目的とする。

活動歴

知的障害と発達障害の子と家族の支援活動である「トータスキッズ」、多世代・多様な人が共に支え成長できる社会の仕組みづくりとその実践活動を行う「SMILE LABO」という2つの活動から構成される。

団体情報

住所: 〒239-0842

横須賀市長沢1-32-11

第5新星ビル302号室

TEL: 046-874-7676

Mail: info@npofamilia.com

URL: <http://www.npofamilia.com> (ファミリア)

<http://www.ts-kids.com> (トータスキッズ)

★助成した事業・活動

発達障害の子どもと親の支援、アドボカシー活動

★内容

知的障害と発達障害の子どもと家族へのオンライン療育相談と学習支援

★助成対象

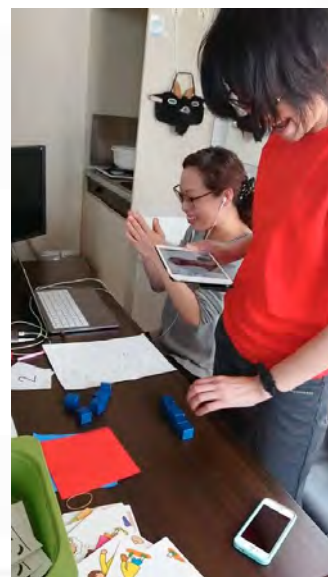
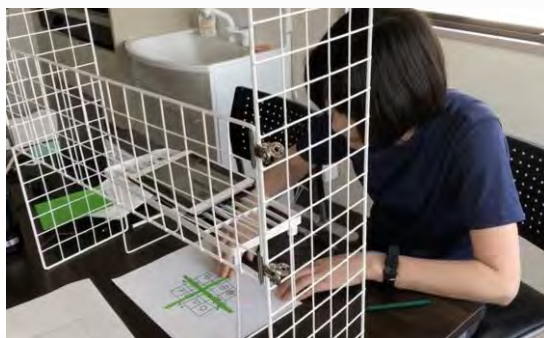
通信費、広報費、相談人件費など

助成を受けて...の思い・メッセージ

緊急事態宣言を受けた3月。発達障害の子どもと家族は、行き場、規則的な生活を失い、とても苦しい状況に追い込まれました。私たちスタッフ自身も追い込まれた状況でしたが、今できることは何か。それを考えスタートさせた知的障害と発達障害の子どもと家族への支援。かながわ生き生き市民基金様の、支援のおかげで継続支援ができていることにとっても感謝しています。

中でも印象的だったのは、神奈川県に住み票があるアルゼンチン在住のご家族への支援。コロナで飛行機が飛ばず、帰国できないにもかかわらず、居住実態がないとこのことで支援が受けられない。今回の助成のおかげで、地球の裏側、12時間の時差を超え、オンラインを通じた支援を行うことができました。

まだまだ先が不透明な毎日ですが、地域の受け皿になれるよう引き続き支援を続けたいと思います。この度はどうもありがとうございました。



NPO法人しえんのまなび舎(平塚市) 代表 高梨 聡美

助成金額 (第1次)50,000円 (第2次)40,000円

団体紹介

設立年月

2019年12月

団体の目的・活動内容

課題をもつ子どもの支援者や保護者に対して子どもがそれぞれに合った支援のヒントを提供する活動に関する事業を行い、子どもたちの健全な育成に寄与することを目的としている。

活動歴

- ①子育て懇談会事業
 - ②支援のヒントを学ぶ、学習会・講演会事業
 - ③自立に向けての相談事業
 - ④個別相談
- ※保護者・支援者の思いから就労移行支援事業所と協働してペガサス就職塾を開設

団体情報

住所: 〒254-0014

平塚市四之宮2丁目24番17号

TEL: 0463-54-5197

Mail: sien.manabiya@gmail.com

URL: <https://sienmanabiya.jimdofree.com>

★助成した事業・活動

発達特性のある子どもの保護者などへの、子育て懇談会、学習会の開催

★内容

リモート子育て懇談会、講演会と団体パンフレット作成

★助成対象

講演会・学習会開催費用など

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

コロナ渦で、私たちが支援している、発達特性のある子どもの保護者や教育者、支援者はそれぞれ不安な日々を送り、相談や話し合いができる場がなくなってしまい、皆さん困っていました。

今回助成して頂いたことで、リモートによる相談や子育て懇談会が開催できて、一応に、皆さんほっとされたようでした。そして、その懇談会の中などで、自尊心が低くなり、子どもに対して、自分に対してもイライラとしてしまうことが多くなっていることがよく分かり、何とかしなければならないと、「自尊心を高める」「メンタルヘルス」に特化した講演会をすることになりました。

まだまだ、一部の会員さんや賛助会員さん、一般の方の参加ですが、このことを通して、「セルフケアができること」「マインドフルネスに取り組むこと」を今年度の柱として活動することになりました。虐待やDVなどがコロナで増えていると言います。特に、発達特性のある子どもの子育ては、大変なものです。保護者や教員・支援者に寄り添い、活動をしていきたいと今回の事業を通して強く思います。このような機会を与えて下さった助成に感謝申し上げます。



認定NPO法人アール・ド・ヴィーヴル(小田原市) 代表 萩原 美由紀

助成金額 (第1次)100,000円 (第2次)100,000円

団体紹介

設立年月
2013年8月

団体の目的・活動内容

障害がある子どもから大人までを対象にアート活動を中心としたワークショップを毎月10回提供。障害があっても自分らしく生きることを追求できる場を提供している。2016年4月には、障害者就労継続B型事業所を開所。アートで社会とつなぐ活動をしている。

活動歴

障害がある方を対象としたアートワークショップ、ヨガ、英会話、陶芸、料理など毎年100回の場合を提供。自分らしく生きる展覧会(10回)、映画上映会「かすかな光へ」「みんなの学校」「ニーゼと光のアトリエ」、「地蔵とリビドー」、東京湾岸ウォールアートプロジェクト、箱根クラフトハウス壁画制作、神奈川県「ともに生きる社会かながわ憲章」普及啓発イベント「みんなあつまれ」ロゴ制作、2019ラグビーワールドカップオーストラリアワラビーズ応援フラッグおよびパッカー車ペイント制作、2019かながわSDGsパートナー登録、2019重度障害がある人のためのアートワークショップ、アウトリーチ開催。2021年4月に生活介護と就労B型の多機能型施設を開所予定。

団体情報

住所: 〒250-0055
小田原市久野906アネシスヒルズ102

Mail: info@artdevivre-odawara.jp
URL: <http://artdevivre-odawara.jp>

★助成した事業・活動

障害者就労継続B型事業所

★内容

オンラインアートワークショップとオンライン展覧会

★助成対象

WEBサイトページ制作、講師謝金など

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

助成をいただいたおかげでオンラインアートワークショップとオンライン展覧会を実現することができました。

コロナ禍で学校が休校になり、外出を控え我慢することが増え、ストレス解消の機会を失っていた障害がある人たち。企画への参加者を募集すると続々と画材を取りにアトリエにやってきました。「この子には絵を描く時間が大切なのがよくわかった」という保護者の声、普段とは一味違う作風に挑戦したり、自由に描ける喜びの笑顔が投稿されました。家庭での創作風景の写真をアップされる方もいらして、投稿を楽しんだり愚痴をこぼして共感されたりと、想定外の保護者同士の交流も生まれたようです。

アートディレクターがセレクトした「オンライン展覧会」には多くの閲覧があり、たくさんコメントして下さるのは、オンラインならではの楽しみでした。コロナ禍でこのような企画が実施できたことは、とても意義深いものだったと感謝しております。



一般社団法人 湘南学校教育研究所(藤沢市) 代表 橋本 佐紀子

助成金額 (第2次) 100,000円

団体紹介

設立年月
2018年5月

団体の目的・活動内容

(目的)

当団体は非営利型一般社団法人として、子どもの心身の健全な育成を図るとともに、いじめや差別のない社会の実現のため学校教育の発展を目指し、社会全体の利益に貢献することを目的とする。

(活動内容)

人権擁護啓発事業(いじめ防止に関する授業・研修、貧困と虐待に関する講演・研修、男女共同参画と性に関する研修)、相談・コンサルテーション事業、支援者養成事業、放課後児童クラブ指導員・部活動指導員などを対象とした教育プログラム開発事業

活動歴

相談支援活動・人権理解啓発活動・他機関との研究活動を主とし、人権研修は、教育機関(小中学校・高等学校・大学) 40校/年、企業・行政 30回/年行っている。相談業務は、児童生徒・保護者だけでなく、医療従事者・教職員・経営者からも受けている。

団体情報

住所: 〒251-0044
藤沢市辻堂太平台1-15-6
シーサイドテラス壱番館C
TEL: 070-3839-8308
Mail: shonshon0390@gmail.com
URL: <https://sise01.webnode.jp/>

★助成した事業・活動

相談支援活動、人権理解啓発活動

★内容

子どもを持つ母親等を対象とした相談事業

★助成対象

SNS管理費、相談ボランティア交通費

助成を受けて...の思い・メッセージ

心理カウンセラーとして活動する中で、課題や問題を抱えた人達は誰かに「相談」することのハードルの高さを感じているのではないかと日頃から考えてきました。早めに相談することで傷が小さくて済むことであっても、自力ではどうにもいかない拗れた状況になって相談に来る人が多いのが現状です。これでは、日常を取り戻すために時間が掛かるどころか、自分の感情などを諦め、最低限の社会生活すらも送れなくなる可能性が高まります。どのようにすれば相談のハードルを下げるができるのか考えていたところ、ボランティア意識ある方々との協働により子育て世代に身近なツールであるLINEを活用することの意義を見出し、SNSを用いた相談活動を行うことになりました。『かながわ生き生き市民基金』の助成をいただき、相談費用を無料にすることができましたことも、相談のハードルを下げる一躍になりました。費用の心配がなく、LINEに返信するだけで、ちょっとした相談ができるという形は、今の時代に合ったものだという手応えを感じております。新型コロナの影響で横のつながりが持ちにくいこともあり、登録者の皆さんに回答しやすいプリアンケートを投げ掛け、その結果をシェアすることにより、他の親子の様子を知ることができたこともとても良かったと嬉しい声をいただくこともできました。これに満足することなく、神奈川県内の親子が健やかな日常を過ごすことができるよう、関連機関との協働を実現させ活動を続けていきたいと思っております。『かながわ生き生き市民基金』の助成活動により、支援する側へ金銭的な支援だけでなく、活動をスタートさせる機会と大きな励みをいただきましたこと、心より御礼申し上げます。



特定非営利活動法人 DV対策センター（横浜市）

代表 穂志乃 愛莉

助成金額(第2次)100,000円

団体紹介

設立年月

2020年3月

(個人相談業務は、2018年1月より開始)

団体の目的・活動内容

当団体は、全ての女性と子供たちが夢と希望を育んで生きられる社会を目指して、活動しています。主に、DV・虐待被害者(以下被害者とする)に以下の救済支援を行っています。①DV・虐待被害の相談・心身の健康を取り戻すためのケア支援 ②対象者が避難するための支援 ④被害者が自立していくための支援(役所等への手続き代行、衣食住の支援、就業・就学支援 ⑤月に一度、母子家庭やDV被害者のための食品配布会の開催 ⑥その他、被害者の心身の健康・安全にかかわるすべての支援を行っております。

活動歴

8月までに相談13件、LINE相談26件、電話相談23件、Zoom相談3件、対面相談8件ありました。シェルターは、23名が利用しました。7月より、毎月第三日曜日に、無料食品配布会の開催(偶数月青葉区社会福祉協議会にて、奇数月ラフェリーチェにて開催。2021年3月まで催行決定)2021年10月新規シェルターOPEN予定。ママ向け就業支援2名、お子さん向け就学支援3名。

団体情報

住所: 〒227-0033

横浜市青葉区鴨志田町807番地5

TEL: 080-7821-4660

Mail: dv.taisaku@gmail.com

URL: dv.taisaku@gmail.com

LINE ID: dvtaisaku(ディータ)

★助成した事業・活動

DV・虐待被害者支援、生活困窮者支援

★内容

DV啓発活動・無料相談・食支援の拡充

★助成対象

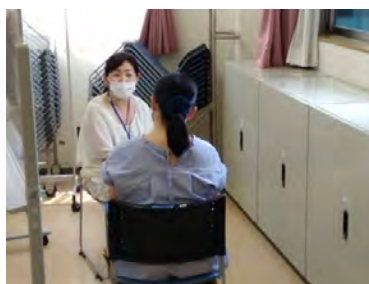
感染対策費、広報費、人件費、会場費

助成を受けて...の思い・メッセージ

DV・虐待被害者は、潜在的には多いものの、なかなか声をあげられない、という課題があります。今回、新型コロナ対応 緊急応援助成を頂き、食品配布会を始めることができ、家庭の中で悩みを抱えている新規のご相談者様と繋がることができました。

専門のカウンセラーは常時2～3人配置し、丁寧に話を聞くことに心掛けました。必要な方には避難のための道筋を示したり、弁護士先生に繋いだりなど、問題解決のために向けた大きな提言をさせていただきました。それをきっかけとして、新しい人生に向けて、大きな一歩を踏み出した方もいらっしゃいます。

当方では、コロナ対策を万全にしたDV・虐待被害者の方のための避難施設も運営しております。現在、地域の小中学校や様々な地域団体さんとの連携を深めています。今後DV・虐待に関するお悩み等ございましたら、是非お繋ぎいただけたら幸いです。



ユニバーサル絵本ライブラリーUniLeaf (葉山町)

代表 大下 利栄子 助成金額 (第2次)100,000円

団体紹介

設立年月

2008年7月

団体の目的・活動内容

市販の絵本を解体し、ページの大きさに透明シートを切り、本文を点字化して挟み込んだ、英国発日本唯一のユニバーサルデザイン絵本の製作と貸出を行う。誰もが尊重され共に生きる社会の実現に貢献することを目的とし、絵本製作講座など、絵本をツールにユニバーサルデザインの理念の普及・啓発活動に取り組んでいる。

活動歴

2019年、蔵書が1000冊に到達、現在25家庭、4学校に定期貸し出ししている。県立逗子高校での絵本製作は10年目。

2019年度内閣府「子供と家族・若者応援団表彰」内閣総理大臣表彰を受賞。

団体情報

住所: 〒240-0111

三浦郡葉山町一色1492-6

TEL: 非公開

Mail: info@unileaf.org

URL: <http://unileaf.org>

★助成した事業・活動

透明シートに点字化して挟み込んだユニバーサルデザイン絵本の製作

★内容

ユニバーサル絵本製作講座のオンライン化

★助成対象

オンライン機器購入費、動画作成費など

助成を受けて...の思い・メッセージ

ユニバーサル絵本製作講座のオンライン化と、その大半を占める点字講習の動画制作は、内容こそ慣れたものとは言え、初めてのことばかりで予想以上に大変だった。貴基金より助成をいただき、三浦学苑教職員や逗子市民交流センター等の惜しみないお力添えがあってこそ実現できた大きな成果である。

出来上がった動画は、制作依頼者である東京家政大学はもとより、その後問い合わせのあった横浜市立神奈川中学校や和洋女子大学にも早速ご案内させていただいた。こうした教育現場での需要や遠方の方からの希望に迅速に対応できる環境が整い、一人でも多くの方にユニバーサル絵本をお知らせし、ユニバーサルデザインの理念や点字のすそ野が広がることにつながれば嬉しい。



NPO法人 ドリームエナジープロジェクト（藤沢市）

代表 内海 智子 助成金額（第2次）100,000円

団体紹介

設立年月

2013年6月

団体の目的・活動内容

知的障がい、発達障がいのある青少年の社会参加を支援し、一般の人たちに障がいへの理解を深めてもらう活動をしています。

彼ら彼女らが持っている可能性を伸ばし、「学びと体験の場」としてのドリプロスクールの運営と、彼ら自らが表現する演劇公演やコンサートを開催しています。

活動歴

教育事業・・毎週日曜、会場を借りて、歌やダンス、美術、書道、写真など講師を呼んでレッスンを行う。
公演事業・・2016年、2017年、2019年 に「21番目の素敵な出逢い」演劇公演を開催。2018年「素敵な出逢いコンサート」開催。

社会参加事業・・「お仕事チャレンジ」障がいのある中学生、高校生が地域のお店や会社でお仕事体験をする取り組みです。期間半年で、これまで55ケースの体験を実施。

団体情報

住所： 〒251-0875

藤沢市本藤沢5-5B302

TEL: 0466-83-1173

Mail: info@dre-pro.net

URL: <http://www.dre-pro.net>

★助成した事業・活動

知的・発達障がいのある青少年の支援

★内容

オンラインレッスンの実施

★助成対象

講師謝金、映像作成費、ホームページ改修費

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

助成いただいたことで、立派なホームページをつくることができ、心から感謝いたしております。コロナの感染が広がる4月、5月に、ホームページを新しく制作する作業をすすめていただきました。これからどうなるのかという不安感のなか、ホームページをつくるために子どもたちの生き生きした写真を選び、またNPO立ち上げの理念を再度確認することで、元気と勇気を与えてもらいました。

歌やダンスなどの各講座は、3月からレッスン会場の使用が中止となり、メンバーが集まっていたレッスンができなくなりましたが、5月からオンラインでのレッスンを始められて、家に閉じこもりがちなメンバーがオンラインでもつながれたことは本当に心強かったです。ありがとうございました。



リンパ浮腫ネットワークジャパン(横浜市) 代表 岩澤 玉青

助成金額 (第2次) 100,000円

団体紹介

設立年月
2019年11月

団体の目的・活動内容

「リンパ浮腫」は、乳がんや婦人科がん等の治療後に発症する後遺症で、難治性疾患です。リンパ浮腫ネットワークジャパン(リンネット)は、リンパ浮腫に関わるすべての人が、困ることなく笑顔で安心して過ごせる社会を目指して、患者支援と治療環境改善を実現するために昨年設立されました。

準備期間を経て春から活動をスタートし、仲間と出合い経験や知恵などを共有しながら支え合うおしゃべり会「なかまカフェ」や、正しい情報を学ぶ「リンパ浮腫セミナー」、リンパ浮腫に関係するがん患者会・支援団体や医療者が交流(ネットワークを構築)し、共に協力しあって活動できる関係づくりの場としての「ネットワーク・ラウンジ」などを開催しています。また、リンパ浮腫の「ワンストップの情報提供」を目指して、ポータルサイトの立ち上げを準備中しています。

活動歴

2019年11月 団体設立
2020年5月 リンパ浮腫セミナー(アメリカ乳がん卵巣がん患者支援団体SHAREと共同開催)
6月・7月 なかまカフェ開催
8月 ネットワーク・ラウンジ(2日にかけて2回実施)
9月 リンパ浮腫セミナー「乳がんとリンパ浮腫」

団体情報

住所: 非公開
Mail: lymnet.lnj@gmail.com
URL:
<https://www.facebook.com/LymphedemaNetworkJapan>

★助成した事業・活動

リンパ浮腫患者支援、情報提供、治療環境改善

★内容

オンライン切り替えのための通信費・インフラ整備

★助成対象

オンライン機材の購入費など

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

この度は、リンパ浮腫ネットワークジャパン(リンネット)の活動にご理解とご支援をいただき、ありがとうございます。

昨年11月にリンネットを立ち上げ、春からいよいよ活動開始という時に新型コロナウイルス感染拡大と重なってしまい、感染リスクの高いとされるがん患者さん向けの集会型のすべての企画をオンラインに切り替えざるを得なくなりました。立ち上げたばかりで資金力のない私たちが、助成によりオンライン通信やインフラ機材を導入できたおかげで、リンパ浮腫で悩む方々とオンラインで円滑につながることができるようになりました。

寄付をいただいた皆様のお気持ちが生かされるように、これからはしっかりと活動に取り組んで参りたいと思います。本当にありがとうございました。



聖マリアンナ医科大学病院乳がん体験者の会マリアリボン(川崎市)

世話人 堀内 美保

助成金額 (第2次) 100,000円

団体紹介

設立年月

2013年5月

団体の目的・活動内容

活動内容聖マリアンナ医科大学病院と関連病院の乳がん体験者のために、おしゃべり会、医師による勉強会、イベント(リンパ浮腫、運動、手作り、アピアランス)クリスマス会など参加人数は3787人(9月18日現在)

活動歴

毎月のおしゃべり会(89回)、勉強会(42回)テーマ別おしゃべり会(15回)クリスマス会(7回)世話人研修(2回)手作り会(5回)運動イベント(4回)リンパ浮腫イベント(2回)アピアランスイベント(2回)

団体情報

住所: 〒216-8511

川崎市宮前区菅生2-16-1

聖マリアンナ医科大学病院
がん相談支援

URL:

http://www.mariannau.ac.jp/hospital/kanja/sinryou/sinryoushisetsu_10/sinryoushisetsu_10/gansaron_06.html

★助成した事業・活動

乳がん患者の院内当事者会

★内容

オンラインおしゃべり会、勉強会、運動イベントの開催

★助成対象

物品購入、講師謝金、郵送料

助成をうけて...の思い・メッセージ

2013年5月より、院内患者会として、病院をお借りしての集まりを開催してきました。七年間で3787人の方が参加してくださいました。新型コロナウイルスにより、病院開催が出来なくなり、オンラインに切り替えるまでの長い道のりは、今思い返しても様々な思いが浮かびます。どのオンラインが適切なのか？携帯の場合イヤホンを使わないと音質が悪くなることなどをひとつひとつ調べ、お試し会を重ねながら、自分たちボランティアも新型コロナで、家庭や仕事不安な中、体験者の方のために何が出来るのかを考え、行動する私たちにとって、助成金の存在を知ったことは、希望でした。オンラインに切り替えるにあたり、必要となる様々なものを購入する費用の捻出が困難でしたので、言葉に出来ないほどありがたかったです。かながわ生き生き市民基金に寄付をしてくださっている皆様の思いを大切にに使わせていただきました。本当にありがとうございました。

◆◆◆ 聖マリアンナ 乳がん体験者の会 ◆◆◆

マリアリボン

マリアリボン(体験者)世代の乳がん体験者の会
乳がんにおしゃべり会、手づくり、クリスマス会など

★オンラインおしゃべり会★ NEW! 体験者向け、要予約

日時: 2020年7月16日(木) 13時~15時
8月20日(木) 13時~15時

参加人数: 15名(先着順)
開催方法: WebEx(スマホ、タブレット、パソコンから簡単に参加していただけます)
申込方法: 1.氏名と電話番号をメールアドレスを明記の上、件名に「〇月〇日おしゃべり会申し込み」と記入していただき、下記宛に申し込みください。詳細をご案内いたします。
申込専用アドレス: mariaribbon@gmail.com
※3日以内に返信メールが届かない場合は、がん相談支援センターまでお問い合わせください。

★第28回オンライン勉強会★ 体験者・ご家族知人、要予約

日時: 2020年7月9日(木) 15時30分~17時

「乳がん診療 最近の話題 ~COVID-19との関連も含めて~」
乳がん・内分泌外科 津川浩一郎先生

開催方法: Zoom(スマホ、タブレット、パソコンから簡単に参加していただけます) <お申し込みはこちら>
申込み先: <https://bit.ly/2YvK5xm>
※当日の参加費は、後日DVD視聴が可能です
(要予約: がん相談支援センターまで、お問い合わせ先: 一人での参加をお願いします)

◆◆◆ 聖マリアンナ医科大学病院 がん相談支援センター ◆◆◆ 044-877-1111

※※※ 本会は「マリアリボン」活動資金の募金活動や、がん相談支援センターでの活動で得た収益を、がん相談支援センター、マリアリボン、マリアリボンに寄付していただいております。

◆◆◆ 聖マリアンナ 乳がん体験者の会 ◆◆◆

マリアリボン

マリアリボン(体験者)世代の乳がん体験者の会
乳がんにおしゃべり会、手づくり、クリスマス会など

★運動イベント★

「乳がん体験者のための、今日から始めたいエクササイズ」
マリアリボンでの運動イベント第4弾、今回はZOOMでの開催となります！
コロナ禍で家にこもる事も多く、体を動かしたい方も多くいます。
奮ってご参加ください！

日時: 2020年8月31日(月) 13時30分~15時00分
定員: 25名(先着順・要予約)
開催方法: Zoom(オンライン)
申込み先: <https://bit.ly/2CYF5JM>

講師: 金子 真紀代 先生

「乳がんと運動」についてのセミナーの後、運動エクササイズを実施します。
エクササイズは、ルーシー・ガトンの呼吸法を、理学療法士ならではの視点から解説し、柔軟性と可動域を高めるエクササイズ。
毎日取り入れるエクササイズもご紹介いたします。一緒に体を動かしましょう！

◆◆◆ 聖マリアンナ医科大学病院 ◆◆◆

※※※ 本会は「マリアリボン」活動資金の募金活動や、がん相談支援センターでの活動で得た収益を、がん相談支援センター、マリアリボン、マリアリボンに寄付していただいております。

「新型コロナ対応緊急応援助成」プログラム実施にともなう

緊急寄付活動について

寄付の趣旨

新型コロナウイルス感染症が拡大し、子どもや高齢者、社会的に弱い立場の人々への影響が広がっています。この状況の中、かながわ生き生き市民基金では「新型コロナ対応緊急応援助成」プログラムを設置し、今行動している団体の活動を支援する取り組みを始めます。

緊急助成の財源は福祉たすけあい基金助成積立金を活用しますが、市民が市民を支えあう、今できる支援行動の一つとしておおぜいのみなさんからの寄付を募集します。

寄付の目標金額と募集期間

寄付目標 200 万円

募集期間 2020 年 4 月 23 日
～ 8 月 31 日

寄付金の実績

寄付総額 6,252,550 円

寄付者数 ① 個人 168 人
② 団体 30 団体



「新型コロナ対応 緊急応援助成」
第2次（6月～8月）助成に向けた

寄付目標金額
200万円

緊急寄付募集

緊急寄付募集の主旨
「新型コロナ対応 緊急応援助成」プログラムによる子どもたちや高齢者、社会的に弱い立場の人々への支援活動を行う団体を応援する取り組みが始まっています。第1次緊急助成には子どもや高齢者の食を支える活動、休校中の子どもたちの学習支援活動などの申請が寄せられ、29団体に総額2,300,430円の助成を行いました。緊急応援助成の財源は福祉たすけあい基金助成積立金より300万円を活用しますが、第1次を上回る市民団体からの助成申請が予測されることから、**寄付目標金額を200万円に増額して取り組みます。**市民が市民を支えあう、今できる支援行動の一つとして、おおぜいのみなさんからの寄付を募集します。

募集期間
2020年8月31日まで

「新型コロナ対応緊急応援助成」(第1次 4月～5月) 助成団体 (29団体)

■横浜市：駒岡丘の上子ども食堂、平安・みんなの食堂、一般社団法人みんなのしめねの会、NPO法人ひだまりの森、NPO法人宮ノ上、Art Lab Ova、NPO法人育空保育センター、NPO法人ワークス・コレクティブ協会 ■相模原市：NPO法人リテラ、あみぞみんなんのコミュニティ、フードコミュニティ、相模原市ひまわり子供食堂、こども広場ワルカム ■座間市：NPO法人ウエスト ■座間市：合同会社高橋、NPO法人相模原食育、育ち会広場てとて、NPO法人相模原まぜせ計画、ドリームセンターてとてカフェ、NPO法人城南DVサポートセンター ■茅ヶ崎市：地域のお茶の園研究所さんどて ■平塚市：子ども学習支援グループ須賀の寺子屋、親と子の寺子屋ふれあい自遊館、NPO法人しんごのまなび舎 ■二宮町：子ども食堂毛急使 ■小田原市：たすけあい、認定NPO法人アール・ド・ヴィーブル ■横浜青葉市：NPO法人ファミリア、新型コロナウイルス関連支援プロジェクトよこすか実行委員会

地域の一人暮らしの高齢者のみなさんに栄養いっしょの手作り弁当をお届けしました
NPO法人宮ノ上(横浜市)

助成団体および助成金額は公益財団法人かながわ生き生き市民基金選考委員会にて選考、理事会にて決定しました。
*「新型コロナウイルス対応 緊急応援助成」プログラムについては財団ホームページよりご確認ください。

寄付方法
下記指定口座にお振込みください。
～ご寄付先口座～ (緊急寄付専用口座)
■ゆうちょ銀行から
記号:00250-9-52723
口座名義:ザイ・カナガワイキキシンキン
■ゆうちょ銀行以外から
店名:〇二九店(ゼロニキュウ店)
口座番号:0052723 口座名義は同じ
*寄付は税額控除の対象となります。領収書の必要の有無は通信欄にご記入ください。

寄付のお申込み・お問い合わせ
公益財団法人かながわ生き生き市民基金
Tel: 045-620-9044
(9:00～17:00 土日祝日除く)
Mail: info@lively-citizens-fund.org
URL: <https://lively-citizens-fund.org/>

寄付文化の拡がりに皆様のご協力を ～市民基金を支える寄付方法～

「賛助会員」として応援する

公益財団法人かながわ生き生き市民基金は、助成事業、研修・セミナー事業、相談・助言事業、広報発行事業の4つの事業を行っています。当財団を継続的に支援して下さる「賛助会員」を募集しています。（賛助会費は当財団の運営に活用されます）

賛助会費は当財団への寄付となり、税制優遇措置の対象となります。

【年会費】

- ◆個人会員（1口 1,000円）1口以上
- ◆法人・団体会員（1口10,000円）1口以上

【特典】

- ◆各種報告書の送付（年次報告書、助成団体報告書「福祉たすけあい基金Book」、フォーラム報告書）
- ◆当財団が企画開催するイベントへのご招待（フォーラム、贈呈式等）

【お申し込み方法】

- ◆ゆうちょ銀行から振込
記号番号 00250-0-72370
ザイ) カナガワイキキシミンキキン
- ◆ゆうちょ銀行以外から振り込み
ゆうちょ銀行 店名：〇二九店
口座番号：0072370
ザイ) カナガワイキキシミンキキン
※通信欄に「賛助会費」とご記入ください。

「福祉たすけあい基金」への 寄付で応援する

◆基金の用途

皆様より戴いたご寄付は、「福祉たすけあい基金」の原資として蓄積し、神奈川県内で福祉・たすけあいの市民活動や事業を行う団体・市民グループへの助成金としてお届けいたします。

なお、寄付金の35%は助成等を行うための法人運営費用として大切に使用させていただきます。

◆寄付金額

1年間1口1,200円となります。1口単位でご寄付可能です。

◆お申し込み方法

寄付の方法は、「口座引落(継続)」「口座振込(単年)」(左記、賛助会員と同じ口座)「現金書留」よりご希望の方法をご選択ください。

詳しくはホームページをご参照ください。

税制優遇について

- ・当財団は公益法人です。公益法人への寄付は、税制上の優遇措置が受けられます
- ・個人の方は所得税、住民税が控除の対象となります。
- ・法人の方は1年間の寄付の総額の一定額を、損金に算入することができます。
- ・詳しくは、お近くの税務署等にお問い合わせください。



公益財団法人 **かながわ生き生き市民基金**

Kanagawa Lively Citizens Fund

発行：公益財団法人 かながわ生き生き市民基金

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜 2-2-15 パレアナビル 6F

Tel : 045-620-9044 Fax : 045-620-9045

Mail : info@lively-citizens-fund.org

URL : <http://www.lively-fund.sakura.ne.jp>

Facebook : <http://www.facebook.com/livelycitizensfund>

発行日：2020年12月1日